|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 学習項目 | 〇学習課題  ・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 | | | 予  定  時  数 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ■評価の方法  ・定期テスト  ・準拠ノート  ・ワークシート | ■評価の方法  ・定期テスト  ・準拠ノート  ・ワークシート | ■評価の方法  ・討論や発表  ・ワークシート |
| ４  月  ５  月  ６  月  ７  月  ９  月 | 世界史へのまなざし  １．地球の誕生と  生命の進化 | ・世界史学習の導入として，地球の誕生以降の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し表現する学習活動を通して，人類の歴史と地球環境との関わりを理解させる。 | ・地球，生命，人類の誕生などの歴史が，それぞれ異なる時間の尺度をもっていることにふれる。 | ・人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に，人類の歴史と地球環境との関わりを理解している。 | ・諸事象を捉えるための時間の尺度や，諸事象の空間的な広がりに着目し，主題を設定し，地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し，表現している。 | ・現在と異なる過去や現在につながる過去にふれ，世界史学習の意味や意義について，主体的に理解を深めようとしている。 | １ |
| ２．日常生活からみ  る世界史―通信  とコミュニケー  ション | ・世界史学習の導入として，衣食住，家族，教育，余暇などの身の回りの諸事象から適切な事例を取り上げ，身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し表現する活動を通して，私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解させる。 | ・日常生活にみる世界の歴史に関わる具体的な事例を取り上げ，世界史学習への興味・関心をもたせるよう指導を工夫する。 | ・衣食住，家族，教育，余暇などの身の回りの諸事象を基に，私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解している。 | ・諸事象の来歴や変化に着目して，主題を設定し，身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し，表現している。 | １ |
| 第１部　諸地域の歴史的特質の形成 | | | | | | |
| 諸地域の歴史的特質への問い | ・諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけるとともに，諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現させる。 | ・生業，身分・階級，王権，宗教，文化・思想などに関する資料を活用する。  ・生徒が考察の結果，表現した問いを，続く第１部の学習内容への課題意識につながるよう指導を工夫する。 | ・生業，身分・階級，王権，宗教，文化・思想などに関する資料から情報を読みとったり，まとめたりする技能を身につけている。 | ・生業，身分・階級，王権，宗教，文化・思想などに関する資料を活用して，文明の形成に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し，問いを表現している。 | ・生業，身分・階級，王権，宗教，文化・思想などに関する資料から，情報を読みとったりまとめたり，複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより，興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 | １ |
| 第１章  古代文明 | ■第１章のねらい  ・オリエント文明，インダス文明，中華文明などを基に，古代文明の歴史的特質を理解させる。  ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，自然環境と生活や文化との関連性，農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・オリエント文明，インダス文明，中華文明などを基に，古代文明の歴史的特質を理解している。 | ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，自然環境と生活や文化との関連性，農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・古代文明の歴史的特質について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | 3 |
| １．農耕と牧畜の  はじまり | 〇農耕や牧畜をはじめたことで，人類の暮らしはどのように変化したのだろうか。  ・農耕・牧畜の開始から国家の成立までの過程における，人類の生活や社会の変化について考える。 | ・p.18の注➊，p.30の資料①を活用し，農耕・牧畜の起源には単一説と多起源説があることを確認しておく。  ・p.19の注➍を活用し，日本の縄文時代の特色についても確認しておく。 | ・p.18の写真①・②，p.19のApproachコラムを活用し，農耕・牧畜の開始によるさまざまな道具の発明，生活上の激変について理解している。  ・p.19の図③を活用し，国家が成立するまでの過程や現在の国家との違いについて理解している。 | ・p.19のPoint，図③を活用し，最古の文明が大河の流域にうまれることが多い理由を多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.19のTryを活用し，農耕・牧畜の開始から国家の成立までの過程で，最も重要と考えられる変化は何か，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．オリエント文明 | 〇古代オリエントには，どのような特徴をもった文明がうまれたのだろうか。また，諸民族の侵入や移動は，オリエントの歴史にどのような変化をもたらしたのだろうか。  ・メソポタミア文明やエジプト文明の特色について考える。  ・東地中海の諸民族の活動と彼らが生み出した文化や宗教について考える。 | ・p.23のApproachコラムを活用し，古代史における鉄の重要性について着目させる。  ・エーゲ文明については，p.66の内容をここで扱ってもよい。  ・p.25の写真④を活用し，イェルサレムがユダヤ教だけでなく，キリスト教とイスラームの聖地でもあることに着目させる。 | ・p.20の地図①，写真②を活用し，西アジア・地中海沿岸の自然環境について理解している。  ・p.21の写真③～⑤，史料「ハンムラビ法典」，p.22～23の写真①～⑤を活用し，メソポタミア文明とエジプト文明の特色について理解している。  ・p.24の写真②，表③を活用し，フェニキア人やアラム人の活動，彼らがうみだした文字が後世に与えた影響について理解している。  ・p.25の写真④，Key Wordを活用し，ヘブライ人の歴史とユダヤ教の特色について理解している。 | ・p.21の写真③・④，史料「ハンムラビ法典」とCheckを活用し，ハンムラビ法典の条文の違いが生じた社会的背景について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.22の写真②とCheckを活用し，「死者の書」に込められた人々の願いについて多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.24のPointを活用し，フェニキア人が海上交易で活躍することができた理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.25のTryを活用，古代オリエントでうまれた知識や技術のうち，後世からみて最も重要と思われるものは何か，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．インダス文明 | 〇インダス文明はどのような特徴をもっていたのだろうか。また，アーリヤ人の進出は，インドにどのような変化をもたらしたのだろうか。  ・インダス文明の特色について考える。  ・アーリヤ人の進出によってインドにもたらされた文化や宗教，社会制度について考える。 | ・p.26の地図②と写真③を活用し，モンスーンのもたらす自然環境により綿花栽培がさかんであることに着目させる。  ・p.27の写真④を活用し，インダス文字が未解読であることを確認しておく。 | ・p.26の写真①，p.27の写真④を活用し，のちのヒンドゥー教に受け継がれるインダス文明の信仰について理解している。  ・p.26の地図②とp.27の写真⑤を活用し，アーリヤ人の進出と彼らのもつ信仰の特徴について理解している。 | ・p.31の大問④のSTEP２を活用し，インダス文明が衰退した原因と考えられている環境問題について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・アーリヤ人進出によるインドの社会的影響や変化について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.27のTryを活用し，のちのインドの文明に影響を与えたものは何か，主体的に追究しようとしている。 |
| ４．中国文明 | 〇中国では，どのような自然環境のもとで文明がおこり，どのような特徴をもつ王朝がうまれたのだろうか。  ・中国文明がおこった自然環境の特色について考える。  ・古代中国の王朝がどのような特徴をもっていたかについて考える。 | ・p.28の地図①を活用し，黄河・長江の周辺に遺跡が集中していることに着目させる。  ・p.29の注➍を活用し，日本やヨーロッパの封建制を学んでいない場合でも，その違いについては補足をする。 | ・p.28の写真②～④を活用し，仰韶文化・竜山文化の特色である土器の特徴を理解している。  ・p.29の写真⑤と写真⑥を活用し，文字や青銅器の使用目的について理解している。  ・p.31の資料⑨を活用し，周代の封建制度の特徴について理解している。 | ・p.29の写真⑤と写真⑥を活用し，殷王朝がどのような統治・政治体制をとっていたか，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.31の資料⑨やp.29の注➍を活用し，周代の封建制度がどのような社会的特徴を規定したか，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.29のTryを活用し，殷と周の統治体制の共通点と相違点について，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE①  古代文明の特質 | 〇紀元前のユーラシア大陸に成立した古代文明の共通点や特質は何だろうか。  ・それぞれの文明の特徴を振り返りながら比較し，共通点を考える。  ・共通点に着目しながら，各古代文明の特質を考える。 | ・それぞれの文明について学んだ内容を振り返り，特徴を確認しながら進める。  ・p.21の史料「ハンムラビ法典」とCheckも参考にする。 | ・p.30の大問①の資料①とSTEP1とSTEP2を活用し，ユーラシア大陸の農耕文化の特徴を理解している。  ・p.30の大問②の資料②～⑤とSTEP1・2を活用し，それぞれの文明で使用された文字を比較し，その特徴を理解している。  ・p.31の大問④の文章とSTEP1・2を活用し，古代文明の滅亡と自然環境の関係について，理解している | ・p.30の大問②のSTEP3を活用し，それぞれの文明で使用された文字が社会でなぜ必要となったのか，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.31の大問③の資料⑥～⑨とSTEP1・2を活用し，古代社会における身分社会の特質について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.31のTryを活用し，身分社会がうまれた背景や権力者たちの特徴を考察し，身分や階級が成立したことによる現代にまで続く問題について，主体的に追究しようとしている。 |
| 第２章  東アジアと  中央ユーラシア | ■第２章のねらい  ・秦・漢と遊牧国家，唐と近隣諸国の動向などを基に，東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解させる。  ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，唐の統治体制と社会や文化の特色，唐と近隣諸国との関係，遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・秦・漢と遊牧国家，唐と近隣諸国の動向などを基に，東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 | ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，唐の統治体制と社会や文化の特色，唐と近隣諸国との関係，遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| １．春秋・戦国時代の変動 | 〇中国の春秋・戦国時代に  は，政治・社会・経済の面で，どのような変動がおこったのだろうか。  ・春秋時代・戦国時代の中国でおこった政治的な変化や社会的・経済的変動について考える。 | ・p.34のApproachコラムを活用し，中国における「天」と王朝交替との関係に着目させる。 | ・p.32の地図①を活用し，戦国時代の中国の状況や「戦国の七雄」について理解している。  ・p.33の表④を活用し，春秋・戦国時代にあらわれた思想家と思想の特徴について理解している。 | ・p.32の写真②，p.33の写真③を活用し，春秋・戦国時代におこった社会・経済的な変化について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.34のPointを活用し，春秋時代と戦国時代の周王に対する諸侯の姿勢の変化について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.34のTryを活用し，春秋・戦国時代にうまれた変化のうち，のちの時代に最も影響を与えたと思われるものは何か，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．中国古代帝国と  東アジア | 〇秦や漢は，広大な領域をどのように統治したのだろうか。また，周辺地域にどのような影響を与えたのだろうか。  ・秦・漢の統治体制の特徴を考える。  ・秦・漢が周辺地域におよぼした影響について考える。 | ・p.36の地図①を活用し，秦・前漢の周辺地域の様子に着目させる。  ・p.38のApproachコラムを活用して，中国古代の女性の立場や女性像の変化について着目させる。  ・p.39のKey Wordを活用し，東アジアの国際秩序の形成に着目させる。 | ・p.35の写真②，p.36の地図①と写真②，p.16の写真②を活用して，秦・漢それぞれの対外政策について理解している。  ・p.37の写真③を活用し，豪族の台頭と貧富の差の拡大について理解している。  ・p.39の写真②やPointを活用し，大陸と日本とのつながりについて理解している。 | ・p.37の史料「王莽の土地国有化の命令」とCheckを活用して，王莽の土地国有化の命令が出された歴史的背景を多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.38のPointを活用して，秦から漢にかけての国家統治の基礎となる思想の変化について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.39のTryを活用し，秦・前漢・後漢それぞれの外交関係の特徴について，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．中央ユーラシアの国家形成 | 〇中央ユーラシア諸地域の遊牧国家の特徴は何だろうか。また，どのような遊牧国家がつくられたのだろうか。  ・遊牧国家の特徴や各遊牧国家の特色について考える。  ・中国王朝との関係について考える。 | ・p.40の地図①と注➊を活用し，草原の道やオアシスの道といった東西を結ぶルートが通っていたことに着目させる。  ・p.35～37の秦，前漢，後漢の対外政策を振り返りながら進める。 | ・p.40の地図①を活用し，東西交易ルートと遊牧国家の関係について理解している。  ・p.40のKey Wordとp.41の写真②を活用し，遊牧国家の形成とその特徴について理解している。 | ・p.41の写真③を活用し，遊牧国家の中のソグド人の活動について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.42の史料「唐支配下の突厥」とCheckを活用し，唐と突厥の関係について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.41のTryを活用し，中央ユーラシアの諸民族が中国の歴史に与えた影響について，主体的に追究しようとしている。 |
| ４．胡漢融合帝国の  誕生 | 〇魏晋南北朝の分裂と遊牧民・漢人の融合を受けて，隋・唐はどのような支配体制と国際関係を築きあげたのだろうか。  ・魏晋南北朝の分裂と遊牧民・漢人の融合の歴史を考える。  ・隋・唐の築いた支配体制や国際関係について考える。 | ・p.46の図②を活用し，北周・隋・唐の王室の関係に着目させる。  ・p.53の写真②，地図③，Approachコラムを活用し，日本の動向と日本と大陸との結びつきについて着目させる。 | ・p.43の地図①と②，p.44の図②を活用し，魏晋南北朝の変遷を理解している。  ・p.44の写真①を活用し，北魏の漢化政策について理解している。  ・p.50の図①とCheckを活用し，唐とその周辺国との関係について理解している。  ・p.51の史料「両税法の施行」とCheckを活用し，両税法が施行された歴史的背景について理解している。 | ・p.45の写真③と④を活用し，魏晋南北朝時代の文化の特徴について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.45のPointを活用し，門閥貴族が果たした役割について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.47の写真⑤，p.48の史料「大秦景教流行中国碑」と写真①とCheck，p.49の写真②を活用し，唐の文化の特徴について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.53のTryを活用し，唐代の文化の特徴について，魏晋南北朝時代の文化と比較しながら，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE②  漢～唐代の国際関係 | 〇漢代から唐代への国際関係に変化に着目し，中国の政治・文化が周辺諸国にどのような影響を与えたのかを考察していこう。  ・漢～唐代にかけて国際関係がどのように変化していったか考える。  ・中国の政治・文化が周辺諸国に与えた影響について考える。 | ・漢～唐代までの中国が，周辺地域や周辺諸国とどのような関係をもっていたか，学習内容を振り返りながら進める。  ・p.50の図①とCheckも確認しておく。 | ・p.54の大問①の資料①とSTEP1・2，大問②の資料②・③とSTEP1・2を活用し，前漢・後漢と匈奴の関係とその変化について理解している。  ・p.55の大問③の資料⑤・⑥とSTEP1・2を活用し，隋・唐と周辺国との関係について理解している。 | ・p.55の大問③の資料⑦とSTEP3を  活用し，唐が東アジアにつくりあげた国際関係について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.55の大問④の資料⑧とSTEP1・2を活用し，北魏・唐の均田制と日本の班田収授法について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.55のTryを活用し，唐代の東アジアの国際関係を通じて，中国から周辺諸国に伝わったものを挙げ，またそれらがその後の周辺諸国の文化・制度に与えた影響について考え，主体的に追究しようとしている。 |
| 第３章  南アジアと  東南アジア | ■第３章のねらい  ・仏教の成立とヒンドゥー教，南アジアと東南アジアの諸国家などを基に，南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解させる。  ・南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色，東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・仏教の成立とヒンドゥー教，南アジアと東南アジアの諸国家などを基に，南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 | ・南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色，東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・南アジアと東南アジアの歴史的特  質について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ３ |
| １．インド古典文化  の形成 | 〇古代インドでは，どのような特徴をもった統一王朝が展開したのだろうか。  ・古代インドに成立した統一王朝の特徴とその変遷について考える。  ・各王朝と仏教の隆盛との関係について考える。 | ・仏教やジャイナ教が，バラモン教の保守主義を否定する形で現れたことを確認しておく。  ・p.60 のKey Wordを活用し，「カースト」が現地の言葉ではないことに着目させる。 | ・p.58の地図①やp.60のApproachコラムを活用し，仏教がどのように日本をはじめとする周辺地域に広がり，どのように影響を及ぼしていったか理解している。  ・p.58の写真②，p.59の写真④を活用し，ガンダーラ様式・グプタ様式のそれぞれの特徴について理解している。 | ・p.56の写真①・地図②とp.57のPointを活用し，マウリヤ朝の統治について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.59の史料「玄奘の伝記に記されたナーランダー僧院」を活用し，ナーランダー僧院の発展や，僧院とヴァルダナ朝・玄奘ら中国僧との関係について多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.60のTryを活用し，古代インドで仏教が栄えた理由として最も大きいと考えられるものは何か，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．古代の東南アジ  アと海のシルク  ロード | 〇古代の東南アジアで発達した国家には，どのような特徴があっただろうか。  ・東南アジアで発達した国家の特徴について考える。  ・中国・インドとの結びつきについて考える。 | ・中国・インドの動きに留意しながら，中国の各王朝との関係や海の道でのインドとの交流に着目させる。  ・p.62の写真①などを活用し，香薬の交易品としての重要性に着目させる。 | ・p.61の地図①と写真②を活用し，東南アジアにおける中国文化の特徴と広がりについて理解している。  ・p.62のKey Word「港市国家」と写真②を活用して，東南アジアの港市国家の特徴について理解している。 | ・p.61のPointとp.63の地図③を活  用して，マラッカ海峡の重要性について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.63の地図③と写真④を活用し，東南アジアにおけるインド文化の流入について多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.63のTryを活用し，東南アジアにおける中国文化とインド文化の影響について，主体的に追究しようとしている。 |
| 第４章  西アジアと  地中海周辺 | ■第４章のねらい  ・西アジアと地中海周辺の諸国家などを基に，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解させる。  ・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原  因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・西アジアと地中海周辺の諸国家などを基に，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 | ・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・西アジアと地中海周辺の歴史的特質について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| １．オリエントの  　　統一 | 〇アッシリアとアケメネス朝ペルシアのオリエント支配の方法には，どのような違いがあったのだろうか。  ・アッシリアの統一と支配の特徴について考える。  ・アケメネス朝の統一と支配の特徴について考える。 | ・p.64の地図②を活用し，アケメネス朝の支配領域や「王の道」に着目させる。  ・p.65の写真⑥を活用し，ゾロアスター教の特徴に着目させる。 | ・p.64の地図①と②を活用し，アッシリアのオリエント統一と４王国の分立，アケメネス朝の再統一までの展開について理解している。  ・p.65の写真④を活用し，ペルセポリスの建設とその役割について理解している。 | ・p.65の写真⑤と史料「ベヒストゥーン碑文」とCheckを活用し，アケメネスの支配の特徴について，アッシリアとの違いも踏まえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.65のTryを活用し，アケメネス朝の支配の特徴を唐代までの中国王朝と比較することで，その共通点を主体的に追究しようとしている。 |
| ２．ギリシア文明 | 〇古代ギリシアのポリスには，どのような特徴があっただろうか。  ・ポリスの成立と発展について考える。  ・アテネの民主政の発展と特徴，ポリスの衰退について考える。 | ・p.67の地図⑥を活用し，フェニキア人やアケメネス朝などオリエント世界と関係しながら展開していることを確認しておく。  ・p.70のApproachコラムを活用し，ポリス社会における男女の活動の違いや，アテネ民主政から排除された立場の人々に着目させる。 | ・p.66の写真①・②・④，地図③を活用し，エーゲ文明の特徴について理解している。  ・p.67の写真⑤，地図⑥，p.68の写真①を活用し，ポリスの成立や社会の変化について理解している。  ・p.68のPointを活用し，スパルタの体制の特徴について理解している。  ・p.71の写真②や表③，p.17の写真③も活用し，ギリシア文化の特徴について理解している。 | ・p.68の写真②やp.70の史料「ペリクレスの演説」とCheckを活用し，アテネの民主政治の形成と特徴について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.69の地図③と写真④を活用し，ペルシア戦争とアテネの繁栄について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.70のPointを活用し，ポリスの衰退について多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.71のTryを活用し，アテネの直接民主政は，現代の民主政と比べてどのような違いがあるか，またその違いを生み出した理由は何か，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．ヘレニズム時代 | 〇アレクサンドロスの東方遠征や大帝国の建設は，ギリシア・オリエントの文化にどのような変化をもたらしただろうか。  ・アレクサンドロス大王の東方遠征と，ヘレニズム文化の発展について考える。 | ・p.65の写真④を活用し，アケメネス朝の都市ペルセポリスを確認しておく。  ・p.58の写真②を活用し，ガンダーラ美術に見られるヘレニズム文化の影響に着目させる。 | ・p.72の写真①を活用し，アケメネス朝の滅亡について理解している。  ・p.73の地図②を活用し，アレクサンドロスの征服地とヘレニズム文化の発展した地域について理解している。 | ・p.73の地図②，写真③，写真④を活用し，ヘレニズム文化の特徴について多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.73のTryを活用し，ヘレニズム  時代にうまれた文化のうち，のちの時代に最も重要な影響を与えたものは何か，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ４．ローマ帝国 | 〇ローマの共和政はどのようにして帝政へと変容していったのだろうか。  ・ローマにおける共和政の成立と支配領域の拡大について考える。  ・ローマにおける帝政への移行とキリスト教の誕生・拡大について考える。 | ・p.76の写真①，p.78のSkill Upコラムを活用し，ローマ社会における奴隷の存在に着目させる。  ・p.79のApproachコラムを活用し，ローマ社会における女性の地位に着目させる。 | ・p.76の写真①を活用し，「パンと見世物」による帝政期のローマ社会の安定について理解している。  ・p.79のPointを活用し，キリスト教の誕生について理解している。  ・p.80の写真①・②を活用し，ローマ帝国の変容について理解している。  ・p.81の地図③と写真④とPointを活用し，ローマ帝国におけるキリスト教の拡大について理解している。 | ・p.75のPointを活用し，アテネの民主政とローマの共和政の違いについて多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.75の地図④，p.77の地図②と写真③を活用し，ローマ領の拡大と帝政への移行について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.77の地図②，p.82の写真②，p.83の史料「タキトゥスによるローマ帝国支配批判」とCheckを活用し，ローマ帝国の支配について多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.83のTryを活用し，ローマが広大な帝国を建設することができた最も大きな要因は何か，主体的に追究しようとしている。 |
| ５．西アジアの国々  と諸宗教 | 〇アケメネス朝の滅亡後，西アジアではどのような王朝がおこったのだろうか。  ・バクトリア，パルティア，ササン朝の成立と発展について考える。 | ・p.84の地図①・②とp.40の地図①を比較し，パルティアとササン朝の領域にシルクロードが通っていることを確認しておく。 | ・p.84の地図①・②を活用し，バクトリア，パルティア，ササン朝のそれぞれが東西地域とどのような交流をもっていたか理解している。  ・p.84の写真③を活用し，ササン朝とローマ帝国との関係について理解している。 | ・p.85のApproachコラム，写真④・⑤を活用し，東アジア地域に見られるペルシア文化の影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.85のTryを活用し，パルティアやササン朝が東西文化の交流に果たした役割について，主体的に追究しようとしている。 |
| １～２世紀の世界 | 〇１～２世紀のユーラシアで，なぜ東西交易路が開拓されはじめたのか。また，そこでの交易はどのようなものだったのか。  ・東西交易を可能にした環境や手段について考える。  ・当時の東西交易の様子について考える。 | ・p.86・87の見開きの地図を活用し，各資料で示されている国・地域・都市の位置と，それらがどの東西交易路で結ばれているか着目させる。 | ・p.86の資料①・②とCheckを活用し，インド洋の航海を可能にした季節風について理解している。  ・p.86の資料③～⑥とCheck①・②を活用し，海路と陸路の違いについて理解している。 | ・p.87の資料⑦・⑧とCheck①・②を活用し，金貨が示す交易の様子について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.87の資料⑨・⑩とCheck①～③を活用し，ローマ帝国と後漢の東西交流の様子や安息（パルティア）の役割について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.87のTryを活用し，1～2世紀の時代，陸路と海路のどちらが遠距離の交易に適していたか，また3世紀以降どちらが発展していくか，それぞれ理由も含めて考え，主体的に追究しようとしている。 |
| 第５章  西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成 | ■第５章のねらい  ・キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家  の形成などを基に，西アジアと地中海周辺，ヨーロッパの  歴史的特質を理解させる。  ・西アジアと地中海周辺，ヨーロッパの歴史に関わる諸事象  の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互  の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較した  り関連付けたりして読み解き，キリスト教とイスラームを  基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し，表  現させる。 | | ・キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に，西アジアと地中海周辺，ヨーロッパの歴史的特質を理解している。 | ・西アジアと地中海周辺，ヨーロッパの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・西アジアと地中海周辺，ヨーロッパの歴史的特質について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ５ |
| １．ビザンツ帝国とギリシア正教圏 | 〇ギリシア正教は，ビザンツ帝国とその周辺国家でどのような役割をはたしたのだろうか。  ・ビザンツ帝国の繁栄と衰退について考える。  ・ギリシア正教がビザンツ帝国や周辺諸国で果たした役割について考える。 | ・p.86・87の見開きの地図を活用し，ビザンツ帝国には東西交易路の拠点が多く存在していたことを確認しておく。  ・p.91のApproachコラムを活用し，キリスト教の分派について着目させる。 | ・p.88の地図①とp.89の写真②を活用し，ユスティニアヌス帝の統治について理解している。  ・p.89の写真③を活用し，ビザンツ帝国が東地中海経済圏の中心地であったこと，また東西交易路の拠点を多くっていたことを理解させる。 | ・p.89のPointを活用し，7世紀のビザンツ帝国の政治・軍事的変化の原因について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.90の地図①・写真③・注➊を活用し，ギリシア正教が果たした役割について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.91のTryを活用し，なぜビザンツ帝国が約1000年間も存続できたのか，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．ラテン=カトリ  ック圏の形成と  展開 | 〇ゲルマン人やヴァイキングなど諸民族の移動によって，ヨーロッパにはどのような国家が形成されたのだろうか。  ・ヨーロッパにどのような国家がつくられたか考える。  ・フランク王国の発展とローマ教会との関係について考える。 | ・p.93の地図③も活用しながら，ゲルマン人の建てた国々が滅びていった歴史に着目させる。  ・p.88～91のビザンツ帝国とギリシア正教の動きを確認しておく。  ・p.95の地図③を活用し，分裂した３国が現在のどの国家の領域に継承されているか確認しておく。 | ・p.93の地図③とCheckを活用し，ゲルマン人がヨーロッパでどのように移動し，建国したかについて理解している。  ・p.97のApproachコラム，写真③を活用し，ヴァイキングやノルマン人の活動について理解している。  ・p.98の写真①，史料「農夫ボドの生活」とCheckを活用し，封建社会について理解している。 | ・p.94の①，p.95のPointを活用し，フランク王国とローマ教会の関係について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.96のPointとp.93の地図③を活用し，他のゲルマン人の移動と比較して見られるヴァイキングの移動の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.98のTryを活用し，なぜ中世ヨーロッパではローマ教会が大きな力をもちえたのか，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．イスラーム圏の  　　成立 | 〇イスラームはどのような背景のもと誕生し，その共同体はどのように発展していったのだろうか。  ・イスラーム誕生の背景について考える。  ・イスラームの共同体がどのように発展し，どのような国が成立したか考える。 | ・p.99のApproachコラムを活用し，イスラームと他の一神教の関係について着目させる。  ・p.103のApproachコラムを活用し，イスラームにおける女性の立場について着目させる。 | ・p.100の図①やp.101のKey Wordを活用し，ウマイヤ朝の成立とシーア派・スンナ派の違いについて理解している。  ・p.101の地図②，写真③を活用し，イスラーム勢力の拡大について理解している。  ・p.102の写真②を活用し，ムスリム商人の活躍について理解している。 | ・p.99の地図①と写真②を活用し，アラビア半島でなぜイスラームが生まれたのか，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.101のPointを活用し，正統カリフ時代とウマイヤ朝，さらにアッバース朝とを比較し，その違いについて多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.103のTryを活用し，イスラームが短期間で勢力を大きく広げることができたのはなぜか，主体的に追究しようとしている。 |
| ８世紀の世界 | 〇8世紀のユーラシアの東西交易により，各地はどのような発展を遂げたのか。またそれぞれの宗教の確立は，各地域にどのような影響をもたらしたか。  ・東西交易による各都市の発展について考える。  ・東西交易の活発化による他地域への宗教・政治への影響について考える。 | ・8世紀までの各地域の動きについて，振り返りながら進める。  ・p.104・105の見開きの地図と資料⑦を活用し，日本でも大陸との交流が始まっていることに着目させる。  ・p.86・87の見開きの地図と比較し，交易路（海路）や拠点の変化にも着目させる。 | ・p.104の資料①・②とCheck①～③と見開きの地図を活用し，キリスト教の動きと周辺地域との関係について理解している。  ・p.104の資料④とCheck①・②を活用し，バグダードの繁栄と国際都市への発展について理解している。 | ・p.105の資料⑤・⑥とCheck①・②，資料⑦とCheck①・②を活用し，東西交易によって，長安と広州で見られるようになった宗教・政治への影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.105のTryを活用し，8世紀にどのような宗教が確立し，それらがそれぞれの土地にどう根ざしたか比較し，主体的に追究しようとしている。 |
| 第２部　諸地域の交流と再編 | | | | | | |
| 諸地域の交流と再編への問い | ・諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけるとともに，諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現させる。 | ・交易の拡大，都市の発達，国家体制の変化，宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用する。  ・生徒が考察の結果，表現した問いを，続く第２部の学習内容への課題意識につながるよう指導を工夫する。 | ・交易の拡大，都市の発達，国家体制の変化，宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料から情報を読みとったり，まとめたりする技能を身につけている。 | ・交易の拡大，都市の発達，国家体制の変化，宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用して，諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し，問いを表現している。 | ・交易の拡大，都市の発達，国家体制の変化，宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料から，情報を読みとったりまとめたり，複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより，興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 | １ |
| 第６章  イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 | ■第６章のねらい  ・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播，ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解させる。  ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，諸地域へのイスラームの拡大の要因，ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播，ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 | ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，諸地域へのイスラームの拡大の要因，ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・西アジア社会の動向とイスラームの伝播，ヨーロッパ封建社会とその展開について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| １．イスラーム圏の  　　多極化と展開 | 〇イスラーム圏の拡大にともない，各地域にはどのようなイスラーム王朝が興亡したのだろうか。  ・各地域に成立したイスラーム王朝の特徴と盛衰について考える。  ・イスラームの文化・学問の発展と，各地域への影響について考える。 | ・p.104・105の見開きの地図を活用し，8世紀にはムスリム商人が東アフリカ沿岸に来航していたことに着目させる。  ・p.117のApproachコラムを活用し，アラビア語起源の言葉がヨーロッパを通じて日本にも多く入ってきていることに着目させる。 | ・p.110の地図②，p.112の地図①・②を活用し，イスラーム諸王朝の変遷について理解している。  ・p.110の写真③とp.111のKey Wordを活用し，マムルークの存在について理解している  ・p.115の地図③，写真④・⑤とCheckを活用し，マリ王国の繁栄とムスリム商人との関係について理解している。  ・p.111の写真④，p.113の写真③，p.114の写真②，p.116の写真①を活用し，イスラーム文化の特色について理解している。 | ・p.112のPointを活用しブワイフ朝とセルジューク朝の共通点と相違点を多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.116の史料「イブン=バットゥータのみたワクフ」とCheckを活用し，イスラーム圏のワクフの役割について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.117のPointを活用し，イスラームの学問がその後のヨーロッパにもたらした影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.117のTryを活用し，イスラーム世界が世界の歴史にもたらした影響のうち，最も重要と考えられるものは何か，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．ラテン=カトリ  ック圏の拡大 | 〇ラテン=カトリック圏の拡大をひきおこすことになった要因は何だろうか。  ・農村の変化と中世都市の繁栄について考える。  ・教会の改革運動や教皇の動きについて考える。  ・十字軍遠征とキリスト教圏の拡大について考える。 | ・p.121のApproachコラムを活用し，中世ヨーロッパの女性について着目する。  ・p.122のApproachコラムとあわせて，p.146の史料「バトゥに謁見するルブルック」とCheckを扱ってもよい。  ・十字軍の動機については，p.124・125も活用する。 | ・p.118の図①・②を活用し，農業の変化と村落の様子について理解している。  ・p.119の地図③と写真④を活用し，遠隔地商業とそれによる都市の繁栄について理解している。  ・p.123の地図②を活用し，十字軍の遠征について理解している。 | ・p.120のPointを活用し，中世都市でギルドがつくられた背景について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.122のPointを活用し，11世紀後半の修道院運動が果たした役割について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.123のTryを活用し，十字軍運動は成功したか失敗したか，またそう考える理由について，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE③  キリスト教圏とイスラーム圏  ―「衝突」と「交流」 | 〇キリスト教圏とイスラーム圏はどのような関係だったのだろうか。  ・十字軍運動を通じた，キリスト教圏とイスラーム圏の衝突について考える。  ・学問・文芸の伝播を通じた，キリスト教圏とイスラーム圏の交流について考える。 | ・キリスト教圏，イスラーム圏それぞれが一枚岩でないことに着目させる。  ・十字軍遠征についてはp.123の地図②も活用する。  ・p.117の写真③やPointも活用し，イスラームの学問の発展とヨーロッパへの影響について振り返る。 | ・p.124の大問①の資料①・②とSTEP1を活用し，十字軍運動の動機について理解している。  ・p.125の大問①の資料④とSTEP3・4を活用し，シーア派とスンナ派の対立について理解している。  ・p.125の大問②の資料⑤・⑥とSTEP1・2を活用し，イスラーム圏における科学の発展について理解している。 | ・p.124・125の大問①の資料①～④とSTEP1～4を活用し，立場による十字軍のとらえ方の違いについて，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.125の大問②の資料⑤・⑥とSTEP3を活用し，またp117，132の記述も参考に，地域間における学問・文芸の伝播について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.125のTryを活用し，十字軍運動がキリスト教圏とイスラーム圏にどのような影響を与えたか，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．ラテン=カトリ  ック圏の動揺と  秩序の変容 | 〇中世を通じて集権化がすすんだ地域とすすまなかった地域には，どのような違いがみられたのだろうか。  ・黒死病，社会の動揺，教皇権の衰退について考える。  ・ヨーロッパの国々がそれぞれどのように政治的展開を迎えたか考える。  ・ラテン=カトリック圏の文化・学問の発展について考える。 | ・p.127のSkill UpコラムとCheckを活用し，ヨーロッパのユダヤ人の境遇に着目させる。  ・p.128の注➊やp.129の図②を活用し，イングランド王とフランス王の関係性に着目させる。  ・p.132のPointの12世紀ルネサンスについては，p.117のPointも振り返る。 | ・p.127のPointを活用し，改革者の主張を通して教会の混乱について理解している。  ・p.128の史料「マグナ=カルタ」とCheckを活用し，マグナ=カルタで定められたことについて理解している。  ・p.129の地図①，p.130の地図③，p.131の地図④などを活用し，各地域の動きについて理解している。  ・p.133の写真②～④を活用し，ラテン=カトリック圏の文化・学問について理解している。 | ・p.126の写真①を活用し，黒死病による社会の動揺について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.129のPointを活用し，百年戦争がイングランドとフランスの歴史に与えた影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.130のPointを活用し，イタリア政策がドイツとイタリアの歴史にもたらした影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.133のTryを活用し，この時期に王権が伸張した地域に見られた共通する特徴は何か，主体的に追究しようとしている。 |
| 第７章  中央ユーラシアと  諸地域の交流・再編 | ■第７章のねらい  ・宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解させる。  ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・宋の社会とモンゴル帝国の拡大など  を基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 | ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| １．中央ユーラシア諸民族と東アジアの変容 | 〇中央ユーラシア諸民族のたてた契丹（遼）・西夏・金はどのような特徴をもち，宋の政治・経済・文化にどのような影響を与えたのだろうか。  ・契丹（遼）・西夏・金が，中国と関係しながら，民族的自覚を高めたことや，宋の社会と相互に影響を与えたことを考える。 | ・p.141の内容を活用し，朝鮮半島が中国における王朝の興亡や各民族に影響されたことに留意させる。 | ・p.135の写真④，p.136の写真①～③を活用し，各民族固有の文化，とくに文字の意義を理解している。  ・p.137の表④を活用し，王安石の新法を，文治主義や国家財政との関連から理解している。  ・p.138の写真①，注➊，p.139の注➋，写真④を活用し，宋の経済的繁栄とその意義について理解している。  ・p.140の写真①～③を活用し，院体画と文人画の相違，青磁・白磁など，宋代の美術について理解している。  ・p.141のApproachコラムを活用し，朱子学が日本に与えた影響について理解している。 | ・p.134の図②，p.135のPoint，地図③を活用し，唐の滅亡後にユーラシア東部でどのような変動がみられたか，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.135の史料「澶淵の盟」，p.136のPointを活用し，宋が文治主義を採用した理由と，それがもたらした弊害について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.135の地図③とCheck，p.137のPointを活用し，契丹（遼）と金の統治政策にみられた共通点について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.141のTryを活用し，宋の政治・社会・文化の特徴について，【文治主義　形勢戸　士大夫】の語句を用いてまとめ，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．モンゴル帝国の  成立 | 〇モンゴル帝国が成立したことにより，ユーラシア大陸にはどのような変化がみられただろうか。  ・モンゴル帝国の発展が，衝突と同時に，さまざまな交流をもたらし，陸海のネットワークを再編させたことを考える。 | ・p.142の写真③，p.143のKey Wordを活用し，モンゴル帝国の大ハンやウルスのあり方に留意させる。  ・p.146のPointを活用する際には，適宜p.148～149の資料⑤～⑦にも着目させる。 | ・p.143の写真④，注➊を活用し，モンゴル軍の機動力・軍事力について理解している。  ・p.147の写真②～④を活用し，東西交流の結果うまれた，さまざまな文物について理解している。 | ・p.143のPoint，図⑤，p.144の地図①を活用し，三つのハン国がどのようにして成立したか。多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.144のPoint，人物コラム，注➊を活用し，元の中国支配の特徴について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.146のPoint，注➊，写真①，史料「バトゥに謁見するルブルック」とCheckを活用し，モンゴル帝国で東西交流がさかんになった要因について，イスラーム勢力との関係もふまえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.147のTryを活用し，モンゴル帝国のもとでユーラシア大陸の一体化がすすんだ要因として，最も重要と考えることを， 東西交流の諸相をふまえながら，主体的に追究しようとしている。 |
| 13世紀の世界 | 〇13世紀の世界における軍事的な衝突や，ヒト・モノ・カネをつうじた文化社会の交流には，どのようなものがみられただろうか。  ・軍事的衝突と文化交流が同時並行で展開したことを考える。 | ・モンゴル軍の侵攻に関する資料においては，記録を残した側の視点が色濃く投影されることに留意させる。  ・p.149の東南アジアに関するCheck①・②は，他ページの内容と合わせつつ，研究状況をふまえて，元軍の影響を過大に評価しないよう留意させる。 | ・p.148の資料①を活用し，ワールシュタットの戦いがどのように叙述されているか，その特徴を理解している。  ・p.149の資料⑤～⑦を，p.146～147の内容と結びつけて活用し，東西交流を支えた交通について理解している。 | ・p.145の写真③，p.149の資料③・④とCheckを活用し，元寇における元軍の構成について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.148の資料②とCheck①・②を活用し，モンゴル軍の侵攻がイスラーム圏の都市やネットワークに与えた影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.149のTryを活用し，モンゴル帝国が，その解体過程となる次の14世紀においてユーラシア各地にどのような政治的影響をもたらしたか，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．東南アジア諸国  の再編 | 〇東南アジア各地域の政治・文化の形成には，どの地域の文化の影響が強くみられただろうか。  ・インド，中国の間に位置する東南アジアが，両地域の影響を受けながらも，独自の文化を形成した過程について考える。 | ・p.62の注➊を活用し，インド化の特質に留意させる。  ・p.150の地図②を活用し，ムスリム商人の来航が続くなか，13世紀末からサムドゥラ=パサイ王国を先駆として，東南アジア諸島部のイスラーム化がはじまることに留意させる。 | ・p.150の写真①を活用し，アンコール=ワットやアンコール=トムの事例にもとづいて，ヒンドゥー教・大乗仏教，王権概念の導入といったインド化の影響を理解している。  ・p.150の写真③を活用し，インド文化の影響を受けながらも，東南アジアでは，ワヤンのような独自の文化が開花したことを理解している。 | ・p.151の写真④を活用し，東南アジア大陸部における上座仏教の選択的受容と，その独自性について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.151の注➌，写真⑤を活用し，中国の文化的影響を受けつつも，ベトナムの王朝が主張した独自性や民族意識について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.150の写真①・③，p.151のTry，写真④・⑤を活用し，この時期に東南アジアでうまれた文化のうち，他地域の文化の影響を受けながら，独自性を主張した文化の例について，具体的な事例をふまえながら，主体的に追究しようとしている。 |
| ４．海域世界の展開  と大交易圏の成  立 | 〇三つの交易圏はどのように成立し，どのようにしてユーラシア規模の大交易圏へと発展していったのだろうか。  ・それぞれの交易圏の担い手や船に注目しつつ，航海技術や商品，ネットワークの発展について考える。 | ・p.153の内容と関係して，重量物の輸送においては，陸上より海上ルートの方が費用面などで有利であるが，それぞれに長所・短所があったことに着目させる。 | ・p.139の史料「海商の大船」，写真③，p.152の写真②，p.153の写真③を活用し，交易を支えたジャンク船とダウ船の構造や特質を理解している。  ・p.154の注➊，写真②を活用し，陸上交易網と海上交易網を結びつけた銀について理解している。 | ・p.152の地図①を活用し，三つの交易圏が重なりあう地域に着目し，ジャンク船がインド洋まで進出した過程について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.115の注➌，p.152の地図①，p.154の写真①を活用し，ダウ船の海における文化の融合について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.154のTryを活用し，三つの交易圏で取引されていた商品のなかで，最も重要と考えるものを，理由も含めて話しあい，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE④  大交易圏の成立と  ムスリム=ネットワーク | 〇イブン=バットゥータはどのような地域を訪れ，何を見聞したのだろうか。  ・イブン=バットゥータが訪れた地域が，｢イスラーム世界｣だけではなかったことについて考える。  ・旅行の背景となる大交易圏とムスリム=ネットワークについて考える。 | ・p.116の内容にあるように，イブン=バットゥータの旅行は，他のムスリム同様，もともとメッカ巡礼・学問修行を主目的としたものだったことに留意させる。  ・p.152の地図①に記載された海域世界のうち，ダウ船の海，ジャンク船の海の範囲を確認しておく。 | ・p.155の資料①（地図）を手がかりに，資料②～⑤を活用し，イブン=バットゥータの旅行が，交易ネットワークと，ムスリム=ネットワークの両者に依拠していたことについて理解している。 | ・p.155の資料①～⑤，STEP1を活用し，イブン=バットゥータが用いた海上交通の手段が，交易ネットワークと関係していたことについて，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.155の資料①～⑤，STEP2・3を活用し，ムスリム=ネットワークは，イスラーム世界のみならず，「異教徒｣の多い地域でも機能したことに気づくなど，この旅行について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.155のTryを活用し，イブン=バットゥータの旅行を可能にした背景について，大交易圏とイスラーム社会のネットワークという視点で主体的に追究しようとしている。  ・p.155のTryを活用し，イブン=バットゥータと自身の旅行を比較する際，目的，交通手段，言語の問題など，自身の経験と関連付けた論点を設定して，主体的に追究しようとしている。 |
| 第８章  大交易時代 | ■第８章のねらい  ・アジア海域での交易の興隆，明と日本・朝鮮の動向，スペインとポルトガルの活動などを基に，諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解させる。  ・諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，アジア海域での交易の特徴，ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・アジア海域での交易の興隆，明と日本・朝鮮の動向，スペインとポルトガルの活動などを基に，諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 | ・諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，アジア海域での交易の特徴，ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ５ |
| １．明と東アジア | 〇明代に形成された海禁=朝貢体制は，明や周辺諸国にどのような影響を与えたのだろうか。  ・海禁=朝貢体制を利用して発展した国もある一方，その体制に不満をいだいた勢力もあったこと，海禁政策の調整が国際情勢に影響を与えたことを考える。 | ・p.158のApproachコラム，p.159の注➌，p.170の写真①などを活用し，中国で銀の需要が高まった背景をふまえ，銀を媒介とする国際的なネットワークに留意させる。  ・p.35の写真②，p.158の写真②を活用し，明代における長城の修築から，騎馬民族との対立・緊張関係に着目させる。 | ・p.156の地図①，p.157の史料「鄭和の南海大遠征」を活用し，鄭和の遠征の範囲と目的について理解している。  ・p.159の写真③を活用し，商業ネットワークをふまえながら，会館・公所の役割について理解している。  ・p.160の写真①・②を活用し，ヨーロッパからも影響を受けた明代の文化の特質について理解している。  ・p.161の写真⑤，注➊，p.162の注➋，Approachコラムを活用し，日本・中国・朝鮮の関係を理解している。 | ・p.156のPoint，注➋，p.157の注➌・➍を活用し，洪武帝がつくりあげた明の政治体制の特徴を，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.158のPoint，写真①を活用し，大交易時代に，琉球とマラッカがはたした役割について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.159のPointを活用し，明代に，稲作の中心が長江下流域から中流域へと移動した要因について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.162のTryを活用し，倭寇や周辺勢力の動きに注目し，明の対外政策の変遷を年表にまとめ，転機になった出来事について，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．ヨーロッパの  　　海外進出 | 〇ヨーロッパの海外進出により，大西洋の両岸地域にはどのような変化がみられただろうか。  ・コロンブス交換や「近代世界システム」などの用語を整理し，その意義について考える。 | ・p.163の地図①，p.164の注➋を活用し，調査のため，沿岸航海をしている場合と，遠洋航海の場合を対比し，新航路開拓の意味に留意させる。 | ・p.152の地図①，p.163の地図①，人物コラムを活用し，ポルトガルによるアジアにおける航路開拓が，既存の大交易圏を利用したものだったことを理解している。  ・p.166の写真①，p.167のApproachコラム，注❶を活用し，「コロンブス交換」について理解している。  ・p.168のThemeコラムを活用し，「近代世界システム」と関連して，東西ヨーロッパにおける構造的な分業と格差について理解している。 | ・p.165のPoint，注➌を活用し，南北アメリカ大陸に栄えた文明に共通する特徴について，鉄・牛・馬が利用されなかったことが，軍事力や生産力に与えた影響をふまえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.166のPoint，写真②，p.172の資料①・②，p.212の資料①を活用し，スペインによるアメリカ大陸支配について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.168のTry，Pointを活用し，大航海時代によってもたらされた変化のうち，最も重要と考えることについて，自身の生活とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．大交易時代の  海域アジア | 〇ヨーロッパ諸国は，どのようにアジア内交易に参入し，海域アジアにどのような変化をもたらしただろうか。  ・ヨーロッパ諸国の参入拠点や扱われた商品などに注目しつつ，海域アジアの変化を考える。 | ・p.171の内容を活用し，ヨーロッパ諸国の海外交易における相違点に留意させる。  ・p.171の写真③を活用し，ヨーロッパでは，アジアの良質な磁器が，奢侈品や耐熱性容器として需要があったことに留意させる。 | ・p.169の地図①，表②を活用し，ポルトガルとスペイン，オランダの海域アジア東部における動向を理解している。  ・p.170の図②を活用し，銀と国際商品の流れについて理解している。  ・p.171のKey Word，写真③を活用し，東インド会社について理解している。 | ・p.158のApproachコラム，p.170のPointを活用し，前期倭寇と後期倭寇の共通点と相違点について，海禁政策の動向をふまえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.171のTryを活用し，ポルトガルとスペイン，オランダが海域アジアに築いた拠点の特徴と，そこに築かれた理由について，主体的に追究しようとしている。 |
| 16世紀の世界 | 〇銀をめぐる世界の一体化は，それぞれの地域にどのような影響をもたらしたのだろうか。  ・銀の商品市場をめぐる鉱山開発や流通の過程で，各地域でどのような事態が生じ，影響をもたらしたかについて考える。 | ・p.172のラテンアメリカの内容については，p.166～167の内容と重複するので，効率よく活用する。  ・中国商人はマニラなどに出向き，出会い貿易が行われたことに留意させる。 | ・p.173の資料④を活用し，銀の流通量と物価の関係について理解している。  ・p.173の資料⑤を活用し，海賊・倭寇を構成した人々の出自が多様であったことを理解している。 | ・p.173の資料③・④とCheck①～③，p.198の内容を活用し，銀の産地，物価上昇の要因，スペインにおける銀の消費について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.159の内容，p.173の資料⑤・⑥とCheck①～③を活用し，密貿易が銀の流通にはたした役割や，中国が銀を輸入した理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.173のTryを活用し，「銀がつくる世界の一体化」にとって，1571年のスペインによるマニラ占領が歴史的にもつ意味について，主体的に追究しようとしている。 |
| 第９章  アジア諸地域の帝国 | ■第９章のねらい  ・西アジアや南アジアの諸帝国，清と日本・朝鮮などの動向を基に，アジア諸地域の特質を構造的に理解させる。  ・アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，諸帝国の統治の特徴，アジア諸地域の経済と社会や文化の特色，日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・西アジアや南アジアの諸帝国，清と日本・朝鮮などの動向を基に，アジア諸地域の特質を構造的に理解している。 | ・アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，諸帝国の統治の特徴，アジア諸地域の経済と社会や文化の特色，日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・近世のアジア諸地域の特質について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| 10  月  11  月  12  月  １  月  ２  月 | １．中央ユーラシア  と西アジアの帝  国 | 〇サファヴィー朝・オスマン帝国とヨーロッパとの間には，どのような関係がみられただろうか。  ・オスマン帝国の勢力拡大と地政学的問題に注意しながら，サファヴィー朝・オスマン帝国とヨーロッパの国際関係を考える。 | ・p.175の写真③，p.178の写真②，p.180の写真②を活用し，イスラーム建築の特徴に留意させる。  ・p.177の史料「レパントの海戦後のオスマン帝国（1571年）」を活用し，この海戦の敗北後も，オスマン帝国の優勢が保たれたことに留意させる。 | ・p.144の地図①，p.174の地図①を活用し，チャガタイ=ハン国の東西分裂からティムール朝の形成にいたる過程を理解している。  ・p.176の地図①，写真②を活用し，サファヴィー朝とオスマン帝国の領域と，ヨーロッパを含めた抗争について理解している。  ・p.178の写真①を活用し，オスマン帝国の統治機構について理解している。 | ・p.175のPoint，注❶，Approachコラムを活用し，サファヴィー朝の繁栄の基盤について，イスラームの宗派的側面をふまえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.177のPointを活用し，スレイマン1世時代がオスマン帝国の最盛期といえる理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.178のTry，Point，注❶，Key Wordを活用し，オスマン帝国でさまざまな民族や宗教が共存できた理由について，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE⑤  イスラーム都市の  繁栄 | 〇イスラーム都市は，なぜ非ムスリム商人をひきつけたのだろうか。  ・税制や宗教などの観点をふまえ，イスラーム都市にヒト・モノ・カネがひきつけられた背景について考える。 | ・p.116の史料「イブン=バットゥータのみたワクフ」を活用し，イスラーム都市の発展において，ワクフのしくみが重要であったことを確認しておく。  ・p.175～178の内容を活用し，イスファハーン，イスタンブルの繁栄について確認しておく。 | ・p.179の資料①を活用し，オスマン帝国に征服された都市におけるキリスト教徒の扱いについて理解している。  ・p.179の資料②を活用し，イスファハーンの繁栄について理解している。 | ・p.179の資料①，STEP1を活用し，非ムスリムに対する税の重要性をふまえながら，オスマン帝国支配下におけるキリスト教徒の扱いについて，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.179の資料②，STEP2・3を活用し，ユグノーの商人シャルダンが，祖国フランスの宗教問題を念頭に置きながら，イスファハーンの繁栄を述べていることに関して，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.179のTryを活用し，イスラーム都市が繁栄した理由について，イスラームの支配下であっても，非ムスリム商人が活動しやすい環境が整備されていたという点に注目し，排他的でない，よりよい社会の実現を視野に，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．南アジアの帝国 | 〇ムガル帝国の宗教政策は，どのように変化していったのだろうか。  ・宗教的共存のための政策がどのように変化し，統治に影響したかを考える。 | ・p.113～114の内容を活用し，インドにおけるイスラーム勢力の進出の前史と，ヒンドゥー教徒とムスリムの共存が実現していたことについて確認しておく。 | ・p.180の地図①，注❶を活用し，ムガル帝国の出自と，インドにおける領土拡大について理解している。  ・p.181の写真③，注➋を活用し，インドにおけるシク教徒の動向について理解している。 | ・p.180の人物コラムを活用し，アクバルとアウラングゼーブの政策の相違点について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.180の写真②，p.181のTry，注➌・➍を活用し，インドの文化にイスラーム文化が与えた影響についてまとめ，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．東南アジア諸国  の発展 | 〇16～17世紀の東南アジア諸国は，どのような交易活動を展開していたのだろうか。  ・港市国家を中心に，さまざまな勢力と関わりながら交易活動が展開されたことを考える。 | ・p.150～151やp.169～171などの内容をふまえ，東南アジア諸国の発展について，構造的に理解できるよう留意させる。 | ・p.182の写真③を活用し，中国との関係に留意しながら，黎朝の国家体制の特徴を理解している。  ・p.183のApproachコラムを活用し，オランダによる東南アジアの交易ネットワークへの参入と，現地海上勢力との関係を理解している。 | ・p.183の写真④，注❶を活用し，東南アジア諸島部におけるイスラーム社会の独自性について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.183の史料「アチェの発展（16世紀）」を活用し，アチェとオスマン帝国が提携した背景について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.183のTryを活用し，東南アジア諸国の発展に宗教がはたした役割について，主体的に追究しようとしている。 |
| ４．清と東アジア | 〇清は中国社会や周辺民族をどのように統治していたのだろうか。  ・清が，自身の出自だけに固執することなく，中国社会や周辺民族をある程度柔軟に統治する方法を整備したことについて考える。  〇東アジア諸国の対外関係は，17世紀にどのように変化したのだろうか。  ・清を中心とした国際秩序をふまえながら，日本や朝鮮といった国々が展開した外交政策について考える。 | ・p.184の地図②，p.185の注➌を活用し，清の直轄地と藩部，朝貢国の区別に留意させる。 | ・p.184の写真①，注➋，Approachコラムを活用し，清の皇帝が，中国の伝統的な皇帝としての側面と同時に，遊牧民族の長としての側面をもつ存在であったこと，チベット仏教を通じた満洲・モンゴル・チベットの結びつきが統治政策に利用されたことを理解している。  ・p.188の史料「フランス人宣教師ブーヴェの中国観（1697年）」，注➊を活用し，清代におけるキリスト教布教をめぐる問題について理解している。 | ・p.186のPoint，写真①，注❶を活用し，清の漢人に対する支配政策の特徴について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.184の地図②，p.187の写真③とCheckを活用し，蘇州が繁栄した背景について，水運に注目しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.188のPointを活用し，清代に考証学が発展した理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.188の地図①，p.189のPoint，Approachコラム，注➋・➌，Key Wordを活用し，日本が「鎖国」中に展開した貿易について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.189のTryを活用し，満洲人が250年以上の長期にわたって中国社会を統治することができた理由について，清のさまざまな政策をふまえ，主体的に追究しようとしている。 |
| 第10章  近世ヨーロッパの  形成と展開 | ■第10章のねらい  ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争，大西洋三角貿易の展開，科学革命と啓蒙思想などを基に，主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解させる。  ・ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，宗教改革の意義，大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴，主権国家の特徴と経済活動との関連，ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争，大西洋三角貿易の展開，科学革命と啓蒙思想などを基に，主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 | ・ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，宗教改革の意義，大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴，主権国家の特徴と経済活動との関連，ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ８ |
| １．ルネサンスと  　　宗教改革 | 〇ルネサンスにみられたどのような精神が，宗教改革をうみだす背景となったのだろうか。  ・エラスムス『愚神礼賛』などの具体的な作品をとりあげながら，ルネサンスと宗教改革にみられる精神について考える。 | ・p.191の写真①を活用し，教皇が芸術家のパトロンとなった背景に着目させる。  ・p.193のApproachコラム，p.194の写真①を活用し，印刷術の発達と宗教改革が連動したことや，人々の識字率の問題に留意させる。  ・ルター派領邦における領邦教会制が，主権国家体制の形成を促進したことに着目させる。  ・イングランドの宗教改革については，p.199～200の内容をここで扱ってもよい。 | ・p.190の写真①，p.191の写真④，p.192の写真①・②を活用し，それぞれの作品が，どのような点でルネサンス的であるかについて理解している。  ・p.192の史料「エラスムス『愚神礼賛』」を活用し，ユーモアを込めて教会を批判するというルネサンス的な風刺が，宗教改革の土壌を築いたことを理解している。  ・p.195の史料「トレント公会議決議の施行」を活用し，教皇の至上権が再確認されたことなど，カトリックによる対抗宗教改革の特徴を理解している。 | ・p.190の写真②，p.191のPoint，写真③を活用し，歴史的背景や芸術家のパトロンの存在をふまえ，ルネサンスがイタリアではじまった理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.192のKey Word，p.193のPoint，Approachコラムを活用し，ルネサンスの三大発明が世界史にもたらした影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.195のPointを活用し，ルターとカルヴァンの思想にみられた共通点と相違点について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.195のTryを活用し，ルター派やカルヴァン派がヨーロッパ諸地域で受け入れられた理由として最も重要と考えるものについて，両派を対比的にとらえながら，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．主権国家体制の  成立 | 〇スペイン，オランダ，イギリス，フランス，東ヨーロッパに成立した主権国家には，どのような特徴がみられただろうか。  ・ヨーロッパ諸国で形成された主権国家について，共通点と同時に，各地の社会構造の相違と関連して，さまざまな特徴がみられたことを考える。 | ・p.196の地図①，p.197の人物コラム，p.202の写真①を活用し，主権国家体制の形成過程でみられた複合国家の実情を確認し，一人の人物が，皇帝，王，公，伯，総督といったさまざまな称号を同時に兼ねていたことに留意させる。  ・主権国家の形成期に成立した絶対王政については，諸国間の相違に留意しつつ，p.197の注❶，p.203の注➌を活用し，絶対性の限界に着目させる。  ・p.202の内容と関連して，名誉革命を経て，イギリス対オランダの対抗軸が，イギリス対フランスに転換したことに着目させる。 | ・p.196のKey Wordを活用し，現在の主権国家との相違に留意しながら，当時の国制について理解している。  ・p.199のApproachコラム，写真③・④，注➌を活用し，オランダが築いた海上覇権をふまえ，その繁栄について理解している。  ・p.201の地図①，注➌，史料「アイルランド侵攻を正当化するクロムウェルの宣言」，p.249のThemeコラムを活用し，イングランド，スコットランド，アイルランド間の「三王国戦争」の実態と影響について理解している。  ・p.203の写真②を活用し，ユグノー戦争の展開とその帰結について理解している。  ・p.204のSkill Upコラムを活用し，ルイ14世の絶対王政やヴェルサイユ宮殿について理解している。  ・p.207の地図①，p.208の写真②を活用し，東欧の大国間で，勢力均衡の原理がはたらき，ポーランド分割がおこったことを理解している。 | ・p.197の人物コラム，p.198のPoint，地図②を活用し，オランダ独立戦争の背景について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.202のPoint，史料「権利の章典」とCheck，p.216の史料「ロックの『統治二論』」を活用し，イギリス革命を通じて確立したイギリスの政治体制について，国王と議会の関係に留意しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.204の図②とCheckを活用し，スペイン継承戦争の背景について，政略結婚に留意しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.205のPoint，写真④，p.206の注❶を活用し，三十年戦争がドイツの歴史に与えた影響について，傭兵の略奪などをふまえ，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.206のPoint，p.207の人物コラムを活用し，東ヨーロッパに啓蒙専制君主が誕生した背景について，社会構造に留意しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.208のTryを活用し，自身が17世紀のヨーロッパのある国の君主であったとすれば，どこの国と同盟を結びたいと考えるか，各国の政策やヨーロッパ全体の情勢をふまえながら，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE⑥  近世ヨーロッパの  経済と強国の交代 | 〇近世のヨーロッパ経済と強国の交代はどう関係しているのだろうか。  ・経済動向の指標を分析して，近世における強国の交代をデータから裏づけ，経済から歴史を考える。 | ・p.168の記述にある商業革命・価格革命について確認しておく。価格革命については，銀の流入だけでなく，人口増加と連動していた点に留意する。 | ・p.209の資料①を活用し，ヨーロッパ各地域の人口動態，｢17世紀の危機｣と人口の関係について理解している。  ・p.209の資料②を活用し，物価（その代表としての小麦価格）の推移が，ヨーロッパの経済動向を分析する指標となることについて理解している。 | ・p.209の資料①・②，STEP1～3を活用し，人口・物価・経済力の関係について，歴史的背景をふまえて分析するなど，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.209のTryを活用し，ポルトガルとスペイン，さらに，オランダ・フランス・イギリスの盛衰と経済力の関係について，アジア・アフリカ・アメリカなどの非ヨーロッパ世界との交易にも注目しながら，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．激化する  覇権競争 | 〇17～18世紀に，イギリスとフランスはどのように植民地競争を展開しただろうか。  ・アジアにおける東インド会社の活動や，北アメリカや西インド諸島における植民地をめぐって競争が展開されたことを考える。 | ・p.210の注❶を活用し，食糧を輸入に頼らなければならず，ときに飢饉もおきるモノカルチャー経済の弊害について留意する。  ・p.210の注➋，p.223の写真④を活用し，奴隷貿易港として栄えたリヴァプールが，産業革命期に勃興する工業都市マンチェスターの外港であることに留意させ，伏線とする。 | ・p.210の地図①を活用し，大西洋三角貿易と，イギリスをはじめとしたヨーロッパ諸国に各地が従属する世界経済が展開したことを理解している。  ・p.211の注➌を活用し，東インド会社がインドから輸入した綿織物が，大西洋三角貿易において再輸出品となったことを理解している。  ・p.211の注➎を活用し，海外進出・植民地をめぐるイギリスとフランスの抗争が，スペイン継承戦争や七年戦争などのヨーロッパにおける戦争と連動していたことを理解している。 | ・p.210のPoint，地図①，注➊・➋，p.212～213の内容を活用し，大西洋三角貿易が，西ヨーロッパ・アフリカ・アメリカの3地域にもたらした変化について，奴隷船の実態や扱われた商品，イギリスの産業革命との関係に留意しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.211のTry，Approachコラムを活用し，イギリスがフランスに勝利できた要因として最も重要と考えることについて，イギリスの財政革命・財政軍事国家の議論をふまえながら，主体的に追究しようとしている。 |
| 16～19世紀の世界 | 〇近世に隆盛し，19世紀に廃止されていくまでの過程で，奴隷貿易・奴隷制は，各地域の歴史にどのような影響をもたらしたのだろうか。  ・奴隷貿易・奴隷制がもたらしたさまざまな影響が，現代世界の構造にも結びつくことを考える。 | ・p.213の資料④・⑤を活用し，奴隷貿易・奴隷制について，人道的観点だけでなく，環大西洋地域の経済構造や，奴隷船の経済効率といった点にも着目させる。  ・p.210の記述の「約1200万人」とは，アフリカで奴隷船に積み込まれた人口の概数であり，中間航路での死亡率は約14.5%と推計されることに留意させる。 | ・p.172の資料①・②，p.212の資料①から，エンコミエンダ制の実態について，理解している。  ・p.212～213の地図と，資料③から，各地にどれくらいの黒人が奴隷として荷揚げされ，そしてどのような産業に従事させられたかということについて，ポルトガルやイギリスの動向に留意しながら，理解している。 | ・p.212の資料②とCheck①・②，p.232のApproachコラムを活用し，サトウキビのプランテーションでの黒人奴隷の酷使と抵抗について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.213の資料⑥とCheck①・②，p.255の地図②，写真③を活用し，アメリカ合衆国における黒人奴隷の扱いについて，南部と北部の対立をふまえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.213のTryを活用し，奴隷貿易が，南北アメリカとアフリカの大西洋岸地域，ならびにイギリスの経済に及ぼした影響について，主体的に追究しようとしている。 |
| ４．近世ヨーロッパ  の社会と文化 | 〇科学革命や啓蒙思想の発展は，当時の社会をどのように変化させただろうか。  ・科学革命は，自然科学が近代的学問として発展する土台となり，さまざまな思想・技術に結びついたことを考える。  ・啓蒙思想は，科学革命の時代を経てうみだされたもので，教会や絶対王政を基盤とした旧体制を動揺させたことを考える。 | ・バロック様式の芸術活動のパトロンとして，対抗宗教改革との関係上，フランスやスペインなどの宮廷と同様に，教会や聖職者も重要であることに留意させる。  ・p.216の人物コラムを活用し，アダム=スミスには，『諸国民の富』と関連して，『道徳感情論』という著作もあることに留意させ，経済思想の豊かさに着目させる。  ・18世紀までには，各地の市民が豊かになり，市民感覚に根ざした文化が発展したことに留意させる。 | ・p.217のApproachコラムを活用し，近世ヨーロッパの女性が，社会的には多くの制約をうけながらも，さまざまな活動に従事したこと，とくにサロンを主催した貴族の女性は，啓蒙思想の普及や，人的交流の活性化に貢献したことを理解している。  ・p.217の写真②，注➌を活用し，社交界のサロンとは異なる人的交流の場として，コーヒーハウスやカフェ，フリーメーソンの会所が機能し，そこから社会を変える運動も胎動しえたことを理解している。 | ・p.214のPoint，写真①・②を活用し，近世ヨーロッパの文化に宮廷がはたした役割について，ベラスケスが宮廷画家としてスペイン王室から庇護されたことをふまえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.215のPoint，人物コラム，注➊・➋を活用し，科学革命をうみだした背景について，学問の方法論の展開をふまえながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.215の史料「ボシュエの王権神授説」，p.216の史料「ロックの『統治二論』」とCheckを活用し，絶対王政の思想的根拠と，それと対置される自然法思想・社会契約説について，構造的に理解している。 | ・p.217のTryを活用し，近世ヨーロッパの自然科学における発見や，新たにうまれた思想のうち，その後の世界に最も大きな影響を与えたと考えるものについて，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| 第３部　諸地域の結合と変容 | | | | | |  |
| 諸地域の結合と  変容への問い | ・諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけるとともに，諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現させる。 | ・人々の国際的な移動，自由貿易の広がり，マスメディアの発達，国際規範の変容，科学・技術の発達，文化・思想の展開などに関する資料を活用する。  ・生徒が考察の結果，表現した問いを，続く第３部の学習内容への課題意識につながるよう指導を工夫する。 | ・人々の国際的な移動，自由貿易の広がり，マスメディアの発達，国際規範の変容，科学・技術の発達，文化・思想の展開などに関する資料から情報を読みとったり，まとめたりする技能を身につけている。 | ・人々の国際的な移動，自由貿易の広がり，マスメディアの発達，国際規範の変容，科学・技術の発達，文化・思想の展開などに関する資料を活用して，諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し，問いを表現している | ・人々の国際的な移動，自由貿易の広がり，マスメディアの発達，国際規範の変容，科学・技術の発達，文化・思想の展開などに関する資料から，情報を読みとったりまとめたり，複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより，興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 | １ |
| 第11章  産業革命と  大西洋革命 | ■第11章のねらい  ・産業革命と環大西洋革命などを基に，国民国家と近代民主  主義社会の形成を構造的に理解させる。  ・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結  果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，産業革命や環大西洋革命の意味や意義などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・産業革命と環大西洋革命などを基に，国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 | ・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，産業革命や環大西洋革命の意味や意義などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・産業革命と環大西洋革命について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ５ |
| １．イギリスの  　　産業革命 | 〇産業革命はイギリスの社会・経済にどのような変化をもたらしたのだろうか。  ・産業革命によって，生産活動の中心が農業から工業に移り，人々の生活も大きく変容したことを考える。  ・産業革命の先駆者となったイギリスが，世界経済の中心としての地域を占めるようになったことの意義と影響を考える。 | ・p.210の地図①を活用し，産業革命に必要な資本が，大西洋三角貿易で準備されたことを確認しておく。  ・p.222の注❶を活用し，農業革命が産業革命と連動したことに着目させる。 | ・p.222の写真②，p.224の写真①・②，Approachコラムを活用し，労働現場や食事，住宅の問題などをふまえながら，産業革命期における労働者の生活について理解している。  ・p.223の表③，写真⑤を活用し，発明の相互関係に注意しながら，産業革命期の技術革新について理解している。 | ・p.222のPoint，地図①，注❶を活用し，資源や労働力などに着目しながら，イギリスで最初に産業革命がおきた要因について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.223の表③，写真④とCheck，p.224の注❶を活用し，産業革命において，リヴァプール・マンチェスター間の営業鉄道が果たした役割を，綿工業の技術革新の関係をふまえ，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.225のPoint，Approachコラムを活用し，産業革命により欧米諸国とそれ以外の諸国・地域の関係がどう変化したか，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.225のTryを活用し，産業革命によっておこった変化のうち，世界史上の転換点として考えられるものについて，さまざまな技術革新，資本主義と社会主義の関係，国際関係の再編などをふまえながら，主体的に追究しようとしている。 |
| 19世紀前半の世界 | 〇諸地域が，イギリスの経済力を背景とした「パクス=ブリタニカ」にどのように組みこまれたのだろうか。  ・「パクス=ブリタニカ」への組みこみに関しては，産業構造，貿易構造の変化や貿易について考える。 | ・資料①はp.255（アメリカ合衆国），資料②はp.274（オスマン帝国），資料③はp.282（インド），資料④はp.285（東南アジア），資料⑤はp.290（中国）などで，それぞれ活用してもよい。 | ・p.226の資料①・③，p.227の資料⑥・⑦を活用し，綿花と綿布の輸出入から，イギリスの産業構造の転換や，アジア・アフリカを含めた海外市場の拡大について理解している。 | ・p.178のKey Word，p.226の資料②とCheckを活用し，カピチュレーション，最恵国待遇について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.227の資料④・⑤とCheck①・②を活用し，イギリスが要請した自由貿易体制と中国を中心とした国際秩序観の相剋について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.227のTryを活用し，19世紀前半に，イギリスは世界各地とどのような関係を結んだのか，地図上の貿易品に注目して，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．南北アメリカの  　　革命 | 〇南北アメリカの独立とその後の動向には，どのような相違があるだろうか。  ・独立については，南北アメリカそれぞれの社会構造と独立運動の担い手，宗主国との関係などについて考える。  ・独立後の動向については，独立以前の社会構造との関係に留意し，アメリカ合衆国が経済的自立をすすめる一方，ラテンアメリカ諸国が欧米資本主義へ経済的に従属した背景を考える。 | ・p.211の内容，p.228の注➋を活用し，イギリスが北アメリカ植民地をめぐってフランスと抗争したこと，両国の植民地の相違について留意させる。  ・p.229の注➎を活用し，アメリカ独立戦争をとりまく国際環境について着目させる。 | ・p.228の地図①，写真②を活用し，北アメリカ植民地の自主独立の気風や，イギリス本国政府の重商主義政策に対する抵抗が，アメリカ独立戦争に結びついたことを理解している。  ・p.229の史料「アメリカ独立宣言」，p.230のSkill Upコラム，注➊を活用し，南北戦争以前のアメリカ合衆国がかかえた奴隷制をめぐる問題について理解している。  ・p.232のApproachコラム，Key Wordを活用し，他のラテンアメリカ諸国の独立と比較しながら，ハイチの独立の意義について理解している。 | ・p.216の史料「ロックの『統治二論』」，p.229の史料「アメリカ独立宣言」とCheckを活用し，独立宣言における革命権の主張について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.231の地図①，写真②とCheckを活用し，アメリカ合衆国の領土拡大をふまえながら，マニフェスト=デスティニーと，その象徴としての女神について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.233のPoint，図③，注➌・➍を活用し，クリオーリョが独立運動の主体となったことをふまえ，独立後のラテンアメリカ諸国でうまれた政治・経済構造について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.230のPoint，p.233のTryを活用し，アメリカの独立が独立革命といわれる背景をふまえ，アメリカ独立革命が残した意義と課題のうち，最も重要と考えるものを，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．フランス革命と  ナポレオン帝政 | 〇フランス革命とナポレオンにより，どのような政治体制が創出されたのだろうか。  ・旧体制下の主権者は王であったが，革命が急進化する過程で共和政が試みられ，国民を主権者とする新たな政治体制が誕生していくことを考える。 | ・p.128のKey Word，p.203の注➌を活用し，身分制議会である三部会について確認しておく。  ・p.216の啓蒙思想に関する記述から，フランス革命の思想的背景について確認しておく。  ・p.236の注➊・➍を活用し，左派・右派の分類や，各派の区別に留意させる。 | ・p.234の写真①・②，注➊，p.235の写真③，注➋を活用し，旧体制下の身分制度と関連した動向が，革命の背景となることを理解している。  ・p.235の史料「人権宣言」，p.236のApproachコラムを活用し，当時，男性に対して劣位に置かれた，女性の権利や時代的限界について理解している。  ・p.237の写真②・③，注➎を活用し，フランス革命期に，新体制にふさわしい国民の創造をめざして実施された政策について理解している。  ・p.238の地図①，写真②，注➊・➋，p.239の写真③を活用し，ナポレオンが築いたヨーロッパの国際秩序と，それに対する抵抗について理解している。 | ・p.234のPoint，写真①，Key Wordを活用し，身分制度と税金の関係をふまえながら，旧体制下のフランス社会と革命の背景について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.234の史料「人権宣言」とCheckを活用し，人権宣言とアメリカ独立宣言について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.235の写真④とCheckを活用し，ヴァレンヌ逃亡事件とその風刺画が人々に与えた影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.236のPointを活用し，国民公会でジャコバン派がおこなった政策について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.239のTry，Key Word「国民国家」「ナショナリズム」を活用し，旧体制が打破され，国民国家の創出がめざされたことをふまえながら，フランス革命が，恐怖政治やナポレオンの登場につながった要因について，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE⑦  大西洋革命 | 〇大西洋革命の精神はどのようなものであり，どんな課題が残ったのか，そしてその後の世界にどのような影響を与えたのだろうか。  ・啓蒙思想が大西洋革命の背景となったが，その理想にもかかわらず，今日からみれば課題を残しつつ，革命が次代を切り開いたことを考える。 | ・p.210の地図①を活用し，大西洋三角貿易によって，大西洋両岸の交流がさかんになっていたことも，政治的変革の連鎖の背景にあったことに留意させる。  ・フランスが植民地側に立ってアメリカ独立革命に参戦したことが，フランスの財政難を助長したことに留意させる。 | ・p.240の資料①を活用し，大西洋革命の複合的な関係性について理解している。  ・p.241の資料②を活用し，アメリカ独立革命を理論的に支えたトマス=ペインの主張の普遍的性格について理解している。  ・p.241の資料③を活用し，イギリス革命と大西洋革命の意義と課題を整理し，相違点について理解している。 | ・p.240の資料①，STEP1・2を活用し，大西洋革命の背景となった出来事や，越境した人々の思想や行動を整理し，それらの影響や働きについて，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.230のSkill Upコラム，p.233のPoint，p.236のApproachコラム，p.241の資料②・③，STEP1～3を活用し，自由・平等の思想が革命の底流にあったにもかかわらず，残存した課題や限界，意義について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.241のTry，資料②を活用し，アメリカ独立宣言やフランス人権宣言の内容と共通している部分について，大西洋革命が世界史に刻んだ普遍的性格をふまえながら，主体的に追究しようとしている。 |
| 第12章  近代ヨーロッパ・  アメリカの国民国家 | ■第12章のねらい  ・自由主義とナショナリズム，南北戦争の展開などを基に，  国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解させ  る。  ・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，自由主義とナショナリズムの特徴，南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・自由主義とナショナリズム，南北戦争の展開などを基に，国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 | ・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，自由主義とナショナリズムの特徴，南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・国民国家と近代民主主義社会の形成について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| １．ウィーン体制と  　　1848年の革命 | 〇ウィーン体制の目的は何だろうか。また，どのような動きがこの体制を崩壊させたのだろうか。  ・正統主義・保守主義・勢力均衡の理念から，ウィーン体制の目的を考える。  ・ナショナリズム・自由主義の理念から，1848年の革命の意義を考える。 | ・メッテルニヒが主導したウィーン体制は復古的，反動的な体制とされるが，大国同士の大きな戦争を防いだ面で，メッテルニヒ自身とともに，再評価されていることに留意させる。  ・p.232～233の内容を活用し，ラテンアメリカ諸国の独立運動もウィーン体制を動揺させたこと，さらに，アメリカ合衆国のモンロー宣言や，イギリスの外交政策がこの流れを促進させたことに留意させる。 | ・p.243の写真③を活用し，画家の制作意図をふまえ，ウィーン体制を動揺させたナショナリズムの運動と，ギリシア独立戦争について理解している。  ・p.244の写真①・②，注❶を活用し，イギリスの自由主義改革が，政治・宗教・経済など，さまざまな領域で展開したことについて理解している。  ・p.245の写真③，注➋を活用し，フランスの七月革命とその影響について理解している。  ・p.245の写真④，人物コラムを活用し，資本主義の弊害を批判する社会主義思想が誕生したことについて理解している。  ・p.246のApproachコラム，写真②，史料「六月蜂起についてのマルクスの分析」を活用し，二月革命から第二帝政の成立にいたるフランスの動向について理解している。 | ・p.242のPoint，写真①，注❶を活用し，大国間の勢力均衡をめざしたウィーン会議において，フランスが正統主義を主張した理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.207の地図①，p.238の地図①，p.243の地図②とCheckを活用し，各国の領域の変化とその背景について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.247のPoint，地図③，注❶，人物コラムを活用し，二月革命の影響のもとヨーロッパ各地でおきた動き（1848年革命）の展開と意義について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.247のTryを活用し，自由主義・ナショナリズム・社会主義のうち，のちの時代に最も影響を与えることになると考えるものについて，自身の価値観に照らし合わせながら，よりよい社会の実現を視野に，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．19世紀後半の  ヨーロッパとア  メリカ | 〇19世紀後半の欧米諸国は，どのように近代化と国民国家形成をすすめたのだろうか。また，ウィーン体制崩壊後のヨーロッパの国際関係はどう変化したのだろうか。  ・欧米諸国の国民国家形成は，相異なる歴史的背景があるために，一様ではなかったことを考える。  ・ウィーン体制崩壊後，バルカン半島周辺で典型的に表面化したように，民族・宗教問題と経済問題が，複合的な地政学リスクとして意識されるなか，大国同士の角逐が激化し，国際関係に影響を与えたことを考える。 | ・p.248の写真①を活用し，万国博覧会が，第二帝政期のパリでも開催されたことを，フランスの産業発展と関連付けて留意させる。  ・p.250の史料「イタリア統一後の課題」を活用し，イタリアにおける地域社会の愛着の歴史的背景として，p.130の地図③などを活用して，中世の状況を確認しておく。  ・p.251のCheckを活用し，ヴェルサイユ宮殿が，フランスの人々にとってどのような意味をもった場所であったかに留意させる。 | ・p.248の写真①，人物コラム，p.249のThemeコラムを活用し，選挙法改正や教育法，アイルランド問題，イギリスの自由貿易帝国主義について，二大政党による議会政治と関連付けながら理解している。  ・p.250の地図①，注❶，史料「イタリア統一後の課題」，Approachコラムを活用し，イタリアとドイツの国家統一の類似点と，国民意識の形成における相違点について理解している。  ・p.252の表②，p.254の地図①，Key Wordを活用し，民族問題がヨーロッパに与えた影響について理解している。  ・p.256の写真①・②，注➋・➌，Key Wordを活用し，アメリカ合衆国における人種や移民の問題と，国家統合の課題について理解している。 | ・p.249のPoint，人物コラムを活用し， ナポレオン3世が，国内産業の育成をすすめるとともに，彼が対外政策をくりかえした理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.251の写真②とCheck，史料「ビスマルクの鉄血演説」とCheckを活用し，ビスマルクの富国強兵政策と，ドイツ帝国の特徴について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.253のPoint，写真③，注➋を活用し，南下政策をすすめるロシアとイギリスが対立した理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.255のPoint，地図②，写真③を活用し，アメリカ合衆国の北部と南部が対立した理由について，産業構造の相違に留意しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.249のThemeコラム，p.251のApproachコラム，p.252の表②，p.256のTry，写真①・②を活用し，19世紀後半に最も国家統合に成功したと考える国について，近現代の事例から，国家統合の功罪についても配慮する視点をもちながら，よりよい社会の実現を視野に，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE⑧  アメリカの  黒人奴隷制度 | 〇アメリカ合衆国の奴隷制はいつ開始され，アフリカ黒人は奴隷制下でどのような生活を送ったのか。また，合衆国の黒人奴隷はなぜ19世紀に急増したのか。  ・アメリカの発展の影に奴隷制があることをふまえ，その問題点を，奴隷をとりまいた歴史的状況に着目しながら考える。 | ・p.224，226，255などの内容を活用し，アメリカ南部の奴隷制プランテーションで栽培された綿花が，綿工業のさかんなイギリスに輸出されたことに着目させる。  ・p.230の内容を活用し，合衆国が奴隷制を含みもつ国家として出発したことを確認する。 | ・p.257の資料①を活用し，奴隷人口の増加の背景として，イギリスの綿工業と結びついたアメリカ南部の綿花生産があったことを理解している。  ・p.257の資料②・③を活用し，奴隷が商品として扱われた実態について理解している。 | ・p.257の資料①，STEP1を活用し，奴隷人口と綿花生産高の因果関係について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.257の資料②・③，STEP2を活用し，売買の際には，性別・年齢・職業などを指標とした市場価値が重視され，家族で一緒に過ごす権利も保障されなかった奴隷の実態について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.257のTryを活用し，南北戦争以前，独立宣言や合衆国憲法の理念が奴隷制と結びついていたことの歴史的意義を，主体的に追究しようとしている。  ・p.257のTryを活用し，憲法修正による奴隷制廃止の法制化にもかかわらず，残存する黒人差別の問題について，人種差別のない，よりよい社会の実現を視野に，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．19世紀のヨーロッパ・アメリカの社会と文化 | 〇19世紀の欧米諸国の文化は，政治や社会とどのように結びついていたのだろうか。  ・文化の営みが，新しい政治や社会の展開と結びついたこと，また文化自体が社会を大きく変化させ，歴史を動かす動因にもなりえたことを考える。 | ・ユゴーがナポレオン3世と敵対して亡命したように，作家・画家・音楽家たち自身が，政治や社会の動向と結びついていたことに着目させる。  ・p.259の写真③を活用し，印象派以降の近代絵画は，伝統的なアカデミズム絵画と対峙しつつも，しだいに市民社会に受容されていったことに留意させる。  ・p.260の注❶を活用し，帝国主義を助長した社会進化論は，ダーウィン自身の思想と区別されるべきことを確認しておく。 | ・p.258の写真①，表②，人物コラム，p.259の写真③・⑤，表④を活用し，政治や社会の動向と関連付けながら，19世紀の欧米の文化の特徴とその変遷について理解している。  ・p.260の人物コラム，表①を活用し，自然科学の研究が産業を発展させ，第2次産業革命を通じた国力の増大にも結びついたことを理解している。  ・p.261のApproachコラムを活用し，性別役割分業などの規範が近代以降に構築された伝統であったことを理解している。  ・p.261の写真③を活用し，神秘的な性格，美を追求した耽美主義といった，世紀末文化の特徴について理解している。 | ・p.258のPoint，p.243の写真③を活用し，ロマン主義がうまれた背景について，ナショナリズムと関連付けながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.261のPoint，p.278の地図②を活用し，探検活動がのちの世界史にもたらした影響について，列強によるアフリカ分割においてみられたような植民地主義と関連付けながら，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.261のTryを活用し，19世紀のヨーロッパ・アメリカの文化のうち，現代の社会や文化に最も影響を与えたと考えるものについて，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| 第13章  地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗 | ■第13章のねらい  ・国際的な分業体制と労働力の移動，イギリスを中心とした自由貿易体制，アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に，世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解させる。  ・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争，アジア諸国の変革などを基に，世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解させる。  ・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，労働力の移動を促す要因，イギリスの覇権の特徴，アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し，表現させる。  ・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，世界経済の構造的な変化，列強の帝国主義政策の共通点と相違点，アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・国際的な分業体制と労働力の移動，イギリスを中心とした自由貿易体制，アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に，世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。  ・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争，アジア諸国の変革などを基に，世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 | ・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，労働力の移動を促す要因，イギリスの覇権の特徴，アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。  ・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，世界経済の構造的な変化，列強の帝国主義政策の共通点と相違点，アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・世界市場の形成とアジア諸国の変  容，世界分割の進展とナショナリズムの高まりについて，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | 10 |
| １．ヨーロッパの  帝国主義 | 〇帝国主義の時代，ヨーロッパ各国の社会でみられた動きは何だろうか。これに対して政府はどのような政策をとったのだろうか。  ・第２次産業革命が帝国主義を導いたことをもとに，各国がどのような帝国主義政策を展開したのか考える。また社会主義や人種主義の動きへの政府の対処について考える。 | ・p.262のグラフ②，およびp.264のグラフ①をていねいに読み取らせ，グラフの数値がどのような歴史的事実を示しているか読み取らせる。  ・p.263の人種主義，およびp.267ユダヤ人問題の内容にふれ，民族問題・人種差別問題の起源の一つがこの時代にあることを確認する。 | ・p.262の地図①を見てその内容を確認し，列強がどのような地域に植民地を拡大したのか理解している。  ・p.266のPointを活用し，ビスマルクとヴィルヘルム2世の政策の比較を通して，帝国主義的政策とその変化について理解している。 | ・p.265のApproachコラム，p.267の史料「ニコライ２世への労働者と住民の請願書（1905年）」を読み，当時のフランス・ロシア政府が社会問題に対してどのように対応しようとしたのかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.267のTryを活用し，ヨーロッパ各国でみられた社会主義にかかわる動きについて，その異同や相互の影響を分析するなど，主体的に追究しようとしている。  ・p.263の人種主義の記述をもとに，現在における人種問題と比較しながら考え，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．アメリカの  帝国主義 | 〇南北戦争後のアメリカは，どのようにして世界一の工業国になったのだろうか。また，どのような地域で海外進出を展開したのだろうか。  ・南北戦争後のアメリカの経済発展の過程，およびそれがもたらした諸問題について考える。 | ・アメリカの帝国主義は，まず移民を受け入れながら国内の開発に向かったことを確認する。  ・p.269の写真③を活用し，フロンティアの消滅宣言ころからカリブ海・太平洋方面へ関心が向かったことを確認する。 | ・p.268の写真②を読み取り，独占・金融資本と政府とがどのような関係にあったか，理解している。  ・p.262の地図①を見て，アメリカの海外進出の概要を理解している。 | ・p.268の写真①およびp.269の人物コラムを活用しながら，南北戦争後のアメリカの経済発展の背後にある移民排斥問題，人種差別問題，労働問題について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.269のTryを活用し，まずアメリカのおこなった対外政策を整理し，何についての「大きな転換点」を問題として設定するかを明らかにしてから調査をおこなうなど，この課題について主体的に追究しようとしている。 |
| 19～20世紀初頭の世界 | 〇19世紀から20世紀初頭の世界でうまれた大洋をまたぐ人の流れとその要因は，どのようなものだったのだろうか。  ・「移民の世紀」におけるプッシュ要因とプル要因について考える。 | ・「移民の世紀」におけるプッシュ要因とプル要因にどのようなことが考えられるのか，地域ごとに付された資料・史料を読み解きながら考える。 | ・移民の理解のためには，プッシュ要因とプル要因という分析の手法が有効であることを理解している。  ・資料①を活用し，アメリカ合衆国の移民についてのプッシュ要因とプル要因について，Checkに沿ってそれぞれ本文から該当箇所を探し，その内容を理解している。 | ・各地域の移民プッシュ要因とプル要因を相互に比較し，共通点と相違点を多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.271のTryを活用し，自分で一つの地域を決め，移民の事例について調査し，そのプッシュ要因とプル要因を分析するなど，この課題について主体的に追究しようとしている。 |
| ３．西アジアの  改革運動 | 〇西アジア諸地域の改革運動は，列強の圧力や干渉を受けながらも，どのようにすすめられていったのだろうか。  ・西アジアにおける列強の進出とそれに対するイスラーム諸勢力の対応について考える。 | ・列強の進出を受けるイスラーム世界について，ただ侵略を受けた存在として扱うのではなく，イスラーム固有の文化や世界観とどのように折り合いをつけ，あるいは戦おうとしたのか考える。 | ・p.272の地図②を読み取り，奪われた領土にどのような勢力が入ったのか理解している。  ・p.274のKey Wordやp.276の史料「タバコ=ボイコット運動」を読みながら，イスラームの列強への対抗の手立てと思想について理解している。 | ・オスマン帝国の改革について，タンジマートとミドハト憲法，青年トルコ革命のそれぞれの時期におかれた状況と改革の内容を多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.277のTryを活用し，エジプト・オスマン帝国・イランの改革運動を相互に比較して特徴を明らかにしたうえで，どれが最も成功したかを考察するなど，この課題について主体的に追究しようとしている。 |
| ４．アフリカの  分割と抵抗 | 〇列強によるアフリカ分割はどのように進行したのだろうか。また，これに対してどのような抵抗運動がおこったのだろうか。  ・アフリカ分割がどのように進行し，その結果アフリカの人々がどのような状況に置かれたのかについて考える。 | ・アフリカは広大な地域であり，民族的・宗教的にも多様であることを前提に考えさせるようにする。  ・アフリカ＝貧困・途上国という負の印象を強調しないよう，アフリカの多様性と抵抗運動に注目させるようにする。 | ・p.278の地図②を読み取り，列強がどの地域に進出したのか理解している。  ・イギリスとフランスの進出地域に注目し，どのような対立と武力衝突があったのか，理解している。 | ・p.279のCheckを活用し，史料「黒人の南アフリカ戦争体験」から現地の黒人たちが置かれた状況を読み取り，アフリカ侵略の帰結について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.280のApproachコラムを活用し，アフリカと日本の関係について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.280のTryを活用し，アフリカの現状をふまえてそこに至る歴史的経緯を整理しながら，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ５．インドの植民地化と民族運動 | 〇イギリスによる植民地化によって，インドの経済・社会はどう変わったのだろうか。  ・イギリスによるインド統治の手法をふまえ，それがどのようにインド社会を変えたのかについて考える。 | ・p.283のApproachコラムを活用し，イギリスの支配によってカースト（ジャーティ）が固定化される過程を事例として，列強の進出がインドに与えた影響について考察する。 | ・18世紀以降のイギリスによるインド統治の方法とその変化について，p.281のPointやp.282の写真①を活用しながら理解している。  ・p.283の写真③を活用し，国民会議派の運動とその主張について理解している。 | ・p.283のApproachコラムを活用し，イギリスによる植民地統治が，インドの経済や文化，教育，カーストなどにどのような影響を与えたのかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.283のTryを活用し，インド大反乱の前後でイギリスの統治政策がどのように変化したのかを整理し，その理由を主体的に追究しようとしている。 |
| ６．東南アジアの植民地化と民族運動 | 〇ヨーロッパ諸国は，東南アジアをどのように植民地化していったのだろうか。  ・東南アジアへの列強の進出について，その時期と歴史的背景に留意しながら，過程とそれによる社会的変化について考える。 | ・それぞれの国の事例の羅列にならないよう，東南アジア諸国のそれまでの歴史的経緯を踏まえ，どのような葛藤と変化があったのかに留意させる。 | ・p.284の地図②を活用して，どの地域にどの列強が進出したかを確認し，理解している。  ・p.287のThemeコラムを活用してオセアニアの歴史を取り上げ，列強進出後の様子と比較しながら理解している。 | ・p.286のPointを活用し，タイが東南アジアで唯一独立を維持できた理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・オランダ・イギリス・フランスによる植民地化の事例を相互に比較し，その異同について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.288のTryを活用し，列強による植民地化が東南アジア諸国にどのような経済構造の変化をもたらしたのか，主体的に追究しようとしている。 |
| ７．東アジアの  国際関係の再編 | 〇アヘン戦争にはじまる欧米列強の進出で，東アジアの国際秩序はどのように変化したのだろうか。  ・列強が清朝に何を要求し，清朝がどのように対応したのかについて考える。 | ・清朝による支配の構造の変化について，列強の進出による外的要因と，清朝内の内的要因とに分けて考察させる。  ・朝貢・冊封体制がヨーロッパの主権国家体制に組み替えられることを，朝鮮や日本も位置づけながら理解させる。 | ・東アジアにおける国際秩序のあり方の変化について，p.289のCheckおよびp.293の史料「日朝修好条規」を活用しながら理解している。  ・日清戦争・義和団戦争から辛亥革命に至る過程について，p.298史料「立憲派の『中華民族』論」も活用しながら，漢人の意識の変化について理解している。 | ・p.296の史料「大日本帝国憲法・憲法大綱」を比較するなど，清朝と日本の近代化の諸相について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.297のSkill UpコラムとCheckを活用し，日露戦争の国際的影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.299のTryを活用して，アヘン戦争以降清が滅亡に向かうまでの転換点を複数挙げ，それぞれどのような意義があるのかについて主体的に追究しようとしている。 |
| 第14章  第一次世界大戦と  諸地域の変容 | ■第14章のねらい  ・第一次世界大戦とロシア革命，ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成，アメリカ合衆国の台頭，アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に，第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解させる。  ・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，第一次世界大戦後の国際協調主義の性格，アメリカ合衆国の台頭の要因，アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・第一次世界大戦とロシア革命，ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成，アメリカ合衆国の台頭，アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に，第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 | ・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，第一次世界大戦後の国際協調主義の性格，アメリカ合衆国の台頭の要因，アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・第一次世界大戦の展開と諸地域の変容について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| １．第一次世界大戦 | 〇第一次世界大戦が総力戦となったことは，交戦国や植民地にどのような影響を与えただろうか。また，ソヴィエト連邦はどのようにして成立したのだろうか。  ・総力戦体制が列強および植民地に与えた影響について考える。  ・ソヴィエト連邦成立の過程について，レーニンの役割に注目しながら考える。 | ・第一次世界大戦の前後で外交関係がどのように変化したのかについて，整理させる。  ・p.305のApproachコラムを扱い，COVID-19の脅威にさらされる現在の状況と比較しながら考察させる。 | ・p.300のPointを活用し，第一次世界大戦前の外交関係がどのようなものだったか，理解している。  ・p.304のPoint，p.315のCheckを活用し，イギリスによる秘密外交が中東問題の原因となったことを理解している。  ・p.306の人物コラム，p.307のPointと写真①を活用し，ソヴィエト政府がどのような政策をすすめたのか理解している。 | ・p.303のApproachコラム，p.304のApproachコラムを読み取って，総力戦が社会をどのように変えたのかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.306のCheckを活用しながら，ロシア革命の評価について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.307のTryを活用し，第一次世界大戦がそれまでの戦争とどのような点で異なっているのか，主体的に追究しようとしている。  ・p.303のApproachコラムを活用しながら，総力戦が国家のあり方をどのように変えたのかについて，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．ヴェルサイユ体制と国際協調 | 〇第一次世界大戦後にはどのような国際体制が構築されたのだろうか。また，欧米諸国ではどのような動きがみられたのだろうか。  ・国際連盟の成立と国際協調の機運の高まりについて，ヨーロッパ諸国を相互に比較しながら，その経緯を考える。 | ・p.312のApproachコラムをp.304のApproachコラムとつなげて読み，ジェンダーの視点からの政治を考えさせるようにする。  ・p.309のApproachコラムを活用し，EU成立までのヨーロッパ統合の流れを意識させる。 | ・p.303の史料「十四か条の平和原則」およびp.309の史料「九か国条約」を活用して，ヴェルサイユ・ワシントン両体制について理解している。  ・アメリカの大量消費社会について，p.313のPointも活用しながら，その光と影について理解している。 | ・p.309のPointを活用して，国際連盟が平和維持のために十分な力を発揮できなかったのはなぜか，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・ドイツとイタリアにおけるファシズムの萌芽が1920年代にうまれていることについて，その歴史的意義を多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.313のTryを活用して，第一次世界大戦後の平和にとってアメリカの貢献は十分だったのかという問いについて，「十分だった」「不十分だった」のいずれかの立場に立って考え，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．アジアのナショナリズムの台頭 | 〇アジアのナショナリズムの台頭に，イギリス・フランス・日本などの政策はそれぞれどのような影響を及ぼしたのだろうか。  ・イギリス・フランス・日本の植民地政策が民族自決の原則のもとでアジアのナショナリズムの高揚につながったことを考える。 | ・p.314の写真①，p.319のApproachコラムを参照して，ジェンダーの視点を意識させる。  ・p.318のApproachコラムから，日本で学んだ留学生とナショナリズムの関わりについて気づかせる。 | ・p.314の地図②とPointを活用し，旧オスマン帝国領がどのように変化し，そこにイギリス・フランス両国がどのようにかかわっているか，理解している。  ・p.317のPoint，人物コラムを活用し，インド独立運動におけるヒンドゥーとイスラームの関係について，ガンディーの思想を踏まえながら理解している。 | ・イスラーム世界の近代化について，p.314の人物コラムを活用しながらトルコとサウジアラビアを比較し，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・第一次世界大戦後の日中関係の変化について，p.320の地図①を参照しながら多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.320のTryを活用して，「インドの民族運動に対してイギリスがとった対応」「朝鮮の民族運動に対して日本がとった対応」を比較し，共通点と相違点を主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE⑨  第一次世界大戦後の中国と国際社会 | 〇第一次世界大戦後，中国の人々は国際社会にどのような期待をいだき，それは最終的にどのような結果にいたったのだろうか。  ・第一次世界大戦後の民族自決原則のアジアへの適用について，それぞれの立場を読み取り，考える。 | ・p.321の資料②と資料③をていねいに読み取らせ，史料から歴史的事実を明らかにし，自らの考察の材料にする姿勢を持たせる。 | ・p.321のSTEP1を活用し，第一次世界大戦直後に中国がどのような外交的立場にあったのか，理解している。  ・p.321のSTEP2を活用し，陳独秀がウィルソンのことを「大ぼら」と呼んだのはなぜか，理解している。 | ・p.319の写真③を参照し，p.321の資料①～③の内容をふまえ，五・四運動のおきた理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.321のTryを活用して，十四か条の平和原則についてどこまでが「理想」で終わり，どこまでが実現したのかについて，主体的に追究しようとしている。 |
| 第15章  第二次世界大戦と  戦後の国際秩序 | ■第15章のねらい  ・世界恐慌とファシズムの動向，ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に，国際関係の緊張と対立を構造的に理解させる。  ・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序，冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に，第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解させる。  ・世界恐慌と国際協調体制の動向に関わる諸事象の背景や原  因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点，ファシズムの特徴，第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し，表現させる。  ・第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の  背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連，アジア諸国の独立の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・世界恐慌とファシズムの動向，ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に，国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。  ・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序，冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に，第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 | ・世界恐慌と国際協調体制の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点，ファシズムの特徴，第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。  ・第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連，アジア諸国の独立の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・戦間期における国際関係の緊張と対立，第二次世界大戦の展開と諸地域の変容について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| １．世界恐慌と  　　ファシズム | 〇世界恐慌に対して，アメリカ・イギリス・ドイツの３か国はどのように対応したのだろうか。  ・アメリカ・イギリス・ドイツの世界恐慌への対応について，相互に共通点と相違点を意識しながら考える。 | ・p.322のグラフ③をていねいに読み取らせる。特に指数を用いたグラフの意味に注意させる。  ・p.325のCheckを活用し，今後のナチ党によるユダヤ人政策をイメージさせる。 | ・p.322の写真①・②，Check，およびp.323の史料「アメリカにおける失業者の状況」を活用し，世界恐慌の社会的影響と，アメリカの対応について理解している。  ・p.326の写真①とCheckを活用し，1930年代における列強間の外交的対立の構図について理解している。  ・p.327のPointを活用し，スペイン内戦における対立の構図を理解している。 | ・p.325の史料「ヒトラーのユダヤ人観」とCheck，およびナチ党の諸政策を参照しながら，ナチ党が台頭し人々の支持を得た理由について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.327のTryを活用して，アメリカ大統領・イギリス首相の立場にそれぞれ立って，当時の政治家がおこなうべきことは何だったのか，主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE⑩  なぜ人々はナチ党を支持したのか | 〇多くの人々がナチ党を支持，政権を維持させてしまった理由は何だろうか。  ・ドイツの人々がナチ党を支持した理由について，複数の視点から整理し，総合的に考える。 | ・現在においてもヨーロッパでは「ネオナチ」等ナチズムが政治的対立における相手を非難する言葉として使用されていることに注意させる。  ・掲載されている多くの資料をていねいに読み取らせ，一つの歴史的事象の多面的な見方を獲得させる。 | ・p.328のSTEP1とSTEP2を活用して，ナチ党と共産党が議席を伸ばした当時のドイツの社会的状況について理解している。  ・p.328のSTEP3を活用して，ナチ党が台頭した理由について，ヴェルサイユ体制批判や失業問題，反ユダヤ主義などの視点から理解している。 | ・p.329のSTEP1からナチ党政権が受け入れられた理由を考えるとともに，STEP3からナチ党への疑問も読み取り，1930年代のドイツ人の心性について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.329のTryを活用して，ファシズムに加担しないためにどのようにすればよいか，資料⑤や資料⑦の内容を読み取り，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．満洲事変と  　　日中戦争 | 〇国民政府と共産党の関係の変化に，日本はどのようにかかわったのだろうか。  ・日本の中国侵略が第二次国共合作につながったことを考える。 | ・p.332のApproachコラムを活用し，国民政府側の抵抗のあり方を理解するとともに，国民政府に対して社会的憎悪が向けられたことに注意させる。 | ・p.330の写真①・②とCheckを活用し，日本が中国にどのように進出しようとしたのか，満洲事変から日中戦争に至る過程を理解している。 | ・p.331のCheckを活用し，史料「中華民国憲法草案」とp.296の史料「大日本帝国憲法」，そのほか欧米諸国の憲法などと比較し，国民の自由や権利のあり方について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.332のTryを活用して，中国・日本・国際連盟のそれぞれの立場から，どのようにすれば日中戦争の勃発を防ぐことができたかを歴史的事実を根拠にしながら推論し，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．第二次世界大戦 | 〇第二次世界大戦はどのように勃発し，どう展開したのだろうか。またアジアの戦争とどう結びついたのだろうか。  ・第二次世界大戦の勃発と展開について，ヨーロッパとアジアそれぞれのファシズム諸国の動きについて考える。 | ・p.336のKey Wordやp.337の注➍を適宜参照させ，歴史的事実に対する評価が，用いる用語の選択としてあらわれることに注意させる。  ・p.339の写真③および注➎を参照し，国民の戦意を挫くべく市民の無差別攻撃に向かったことに注意させる。 | ・p.333の地図①，写真②とCheckを活用して，第二次世界大戦前夜の外交関係について理解している。  ・p.334の地図①とp.336の地図①を参照し，第二次世界大戦における枢軸国側の侵攻と連合国側の反撃について理解している。 | ・p.337のPointをもとに，p.337の写真③などを読み取り，日本の朝鮮・台湾の統治政策について，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.338の史料「大西洋憲章」とCheckを活用して，大西洋憲章における「戦争目的」の語りを読み取り，ファシズム諸国のそれと比較しながら多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.339のTryを活用して，連合国側が第二次世界大戦に勝利できた要因を複数挙げ，その中から最も重要な要因について主体的に追究しようとしている。 |
| ４．戦後の変革と  　　冷戦のはじまり | 〇第二次世界大戦終結後，国際社会や各国ではどのような改革の動きがみられ，そのなかで冷戦はどのようにしてはじまったのだろうか。  ・冷戦がはじまった経緯を理解するとともに，それがヨーロッパ・アジア各地にどのような影響を与えたのかを考える。 | ・国際連合の役割について，中学社会の公民的分野での学習内容も想起させる。とくに現在の戦争・紛争に果たしている役割にも注目させる。  ・アジアにおける戦争・紛争が，植民地からの独立・自立の動きからおきているものであることから，第14章3との連続性に注意させる。 | ・p.340のPointを活用して，国際連盟と国際連合の違いについて，意志決定機関や武力制裁の有無などの観点を理解している。  ・p.342の写真①とCheck，地図②を参照し，冷戦の定義と両陣営の展開について理解している。  ・第二次世界大戦直後のアジアにおける戦争・紛争について，p.344の人物コラムやp.345のCheck，p.347の地図②を参照しながらその経緯を理解している。 | ・p.340のCheckを活用して，p.235の史料「人権宣言」とp.340の史料「世界人権宣言」とを比較し，その異同にみられる歴史的意義について多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.346のPointを活用して，中国共産党が国民党との内戦に勝利できた理由について，p.332のApproachコラムも参照しながら多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.347のTryを活用して，朝鮮戦争がその後の世界史にどのような意義をもったか，冷戦構造の変化や朝鮮半島情勢の経過をふまえて主体的に追究しようとしている。 |
| 第４部　地球世界の課題 | | | | | | |
| 第16章  冷戦と現代世界 | ■第16章のねらい  ・集団安全保障と冷戦の展開，アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き，平和共存と多極化の進展，冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に，紛争解決の取組と課題を理解させる。  ・国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，国際連盟と国際連合との共通点と相違点，冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点，紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・集団安全保障と冷戦の展開，アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き，平和共存と多極化の進展，冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に，紛争解決の取組と課題を理解している。 | ・国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，国際連盟と国際連合との共通点と相違点，冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点，紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・紛争解決の取組と課題について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ６ |
| １．冷戦下の  安全保障体制 | 〇1970年代までの冷戦はどのように展開したのだろうか。また，そのなかで中国や西ヨーロッパでは，どのような動きがみられただろうか。  ・1970年代までの冷戦における「緊張と緩和」のそれぞれの事例について，具体的に考える。 | ・p.351のThemeコラムおよびp.374のThemeコラムをもとに，ロシアのウクライナ侵攻で核兵器使用が取り沙汰される現状までつなげて，核問題を考えさせる。  ・p.357のApproachコラムを一読させ，日本のそれと比較しながら，その異同について考察させる。  ・p.352の写真①，Pointを活用して，スターリン死後のソ連と東欧諸国の関係について理解している。  ・1950年代から70年代にかけての「緊張と緩和」について，p.351の史料「フルシチョフのスターリン批判」とCheck，p.352の写真②，p.357のPointを活用して理解している。 | | ・p.353の史料「シューマン=プラン」とCheckを活用して，普仏戦争以降の独仏関係史を整理し，シューマン=プランに帰結する一連の流れを多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.356の史料「ベトナム反戦兵士の声明」とCheckを活用して，ベトナム戦争の経緯，アメリカ兵，p.355の写真③にある写真など，それぞれの立場について多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.357のTryを活用して，冷戦期における緊張緩和のきっかけと考えられる事例を複数挙げ，その中から最も重要であると考えられることを，歴史的事実を根拠として主体的に追究しようとしている。 |
| ２．脱植民地化と  　　非同盟 | 〇脱植民地化をはたした国々は，どのような問題に直面することになっただろうか。  ・アジア・アフリカ諸国の外交的・経済的課題について，現在にもつながる問題として考える。 | ・アジア・アフリカ・ラテンアメリカにおける開発独裁の功罪について，ていねいに考えさせたい。p.361のApproachコラムやp.362の史料「アジェンデ政権の発足」なども参照させる。  ・p.358の写真①や史料「第１回非同盟諸国首脳会議宣言」などを活用して，非同盟運動が何を求めどのように展開したのか，理解している。  ・p.363の地図①を参照しながら，中東戦争の経緯について理解している。 | | ・p.358の史料「第１回非同盟諸国首脳会議宣言」とCheckを活用して，戦争がおこる背景と戦争防止の可能性について，p.332のTryなどとも関わらせながら多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.360の史料「文化面での脱植民地化の課題」とCheckを活用して，植民地支配，および脱植民地化にとって言語がどのような意味や力をもったのか，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.363のTryを活用して，戦後独裁体制がみられたアジア・アフリカ・ラテンアメリカの国を挙げ，独裁の特徴およびそれがうまれた理由について，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．冷戦の終結と  　　現代世界 | 〇冷戦が終結した後，世界にはどのような対立や紛争が生じたのだろうか。  ・冷戦終結後に世界各地で起きている戦争・紛争のあらましとその歴史的背景について考える。 | ・p.364の写真②については，p.375の写真③やロシアのウクライナ侵攻とも関わらせながら，その意義を考えさせる。  ・p.370のApproachコラムを手がかりに，中国や韓国の変化と日中・日韓関係について考えさせる。 | ・p.364の写真①とPointを活用して，ペレストロイカ以降のソ連の外交姿勢の変化と冷戦終結の経緯について理解している。  ・1990年代の戦争・紛争について，その概要を整理し，理解している。  ・パレスチナ問題・中東問題の現在に至る経緯について，オスロ合意やp.370の写真②，またp.372の史料「対テロ戦争」とCheckなどをもとに理解している。 | ・p.366のPointを活用して，ペレストロイカ，ドイモイ政策，改革開放政策の共通点と相違点を分析し，それらを多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.375のPointを活用して，オバマとトランプがすすめた政策を比較したうえで多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.375のTryを活用して，冷戦終結後にグローバル化がすすむ中で生じた危機を複数挙げ，その中から最も重視すべきものとその理由を，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ３  月 | ACTIVE⑪  現代の紛争と解決への国際的取り組み | 〇現代世界において，紛争はどのような形をとってきたのだろうか。また，紛争を解決するため，どのような国際的取り組みがなされてきたのだろうか。  ・現代世界における紛争の現状とその解決のための取り組みについて，どんな主体がどのように行動しているかを考える。 | ・扱う年度におこっている紛争を新聞記事等から引用し，いま現在でも紛争がおこっていることを現実的に理解させる。一方で必ずしも評価の定まっていない事象を扱うことから，戦争・紛争・暴力は悪であることを大前提に，いずれかの立場だけに偏らないよう留意する。 | ・p.376のSTEP1を活用して，資料①の地図にある世界各地域での紛争の概要を理解している。  ・p.376のSTEP3を活用して，PKOの果たした役割について理解している。 | ・p.377の大問②のSTEP1・2および資料④を活用して，旧ユーゴスラヴィア国際法廷で裁かれた経緯を理解するとともに，STEP3を活用して第二次世界大戦後の国際法廷の取り組みとの関わりを多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.377の大問③のSTEP1・2を活用して，積極的平和の実現のために必要な取り組みについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.377のTryを活用して，真の平和とはどのようなものか考えるとともに，そのような平和を導くためにどのような取り組みがおこなわれているのかについて，主体的に追究しようとしている。 |
| 第17章  世界経済の展開 | ■第17章のねらい  ・先進国の経済成長と南北問題，アメリカ合衆国の覇権の動揺，資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換，アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題，経済のグローバル化などを基に，格差是正の取組と課題を理解させる。  ・国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴，諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴，経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・先進国の経済成長と南北問題，アメリカ合衆国の覇権の動揺，資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換，アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題，経済のグローバル化などを基に，格差是正の取組と課題を理解している。 | ・国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴，諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴，経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・格差是正の課題と取組について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ３ |
| １．冷戦と経済統合 | 〇第二次世界大戦後から1960年代までの欧米諸国や日本の経済は，どのように展開したのだろうか。  ・第二次世界大戦後のブレトン=ウッズ体制や人民民主主義について，それぞれ何を目指したものだったのか考える。 | ・現在に至るグローバリゼーションがp.378の写真②に示されるようなアメリカニゼーションと軌を一にする側面があることを指摘し，それらへの批判的なまなざしが存在することに留意する。 | ・p.378の地図①および表③を参照し，冷戦体制下においてどのような経済協力体制が築かれたのかについて理解している。 | ・p.379の注➋・➌を参照して，福祉国家のあり方と社会主義経済体制を比較し，その異同を分析しながら多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.379のTryを活用し，この時期の西欧諸国と東欧諸国にみられた経済格差是正の試みとその問題点について，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．第三世界の経済 | 〇独立後の第三世界の国々には，どのような経済的問題がみられただろうか。 | ・p.380の注➋で説明されている従属理論は説得力をもつが，開発途上国に対する過度な負のイメージを生徒がもたないよう，近年の新興国の動きとあわせて展開するよう工夫する。 | ・p.380の史料「新植民地主義」を読み取ることを通じ，第二次世界大戦後のアジア・アフリカ諸国がおかれた経済的状況について理解している。 | ・p.381の史料「ナセルのスエズ運河会社国有化演説」とCheckを活用して，スエズ運河とエジプトがイギリスに翻弄されてきた歴史を振り返り，史料がもつ意義について，資源ナショナリズムの観点をふまえて多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.381のTryを活用し，冷戦と南北問題がもっていた問題点をそれぞれ挙げたうえで，どちらが先に解決すべき問題だと考えられるか，歴史的事実を根拠にしながら主体的に追究しようとしている。 |
|  | ３．産業構造と  　　社会の変化 | 〇1960年代にみられた社会運動にはどのようなものがあっただろうか。また２度の石油危機とベトナム戦争は，世界経済にどのような変化をもたらしただろうか。  ・ドル=ショックがブレトン=ウッズ体制を崩壊させ，石油危機がアメリカの経済危機に追い打ちをかけたことによる変化について考える。 | ・長らく指摘されてきた歴史学におけるジェンダー視点の欠落について，p.383のApproachコラムを活用してその意味を生徒に考えさせる。 | ・p.383のグラフ③をていねいに読み取り，大きな変化のあった年におこった経済上の変化についてそれぞれ理解している。 | ・p.382の史料「国連人間環境会議の人間環境宣言」を読み取り，経済活動を優先した結果としての環境破壊に対する疑義が，どのように現在の社会の価値観を変え，現在に至るのかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.383のTryを活用し，2度の石油危機とベトナム戦争がどのような世界経済の変化をもたらしたのかを整理したうえで，そのうち最も重要だと考える事柄について，主体的に追究しようとしている。 |
| ４．グローバル化と新自由主義の時代 | 〇世界経済のグローバル化がもたらすさまざまな諸問題に，国際社会や各国はどのように対応してきただろうか。  ・グローバル化による問題の諸相としてどのような点が挙げられるかについて考える。 | ・日本の自民党政権は，新自由主義にもとづく政策を展開してきた。そのことを前提に，新自由主義の功罪をそれぞれ指摘し，生徒の現代的な問題関心を喚起するようにしたい。 | ・p.384の史料「イギリス首相サッチャーの発言」とCheckを活用して，新自由主義の考え方について理解している。  ・p.385の地図②を活用して，現在のリージョナリズムの動向について理解している。  ・グローバル化の問題点の一つとして，労働力の移動とその置かれた条件について理解している。 | ・p.385のPointを活用して，世界各地の経済統合について，TPPやRCEPなど2010～2020年代の動きとその背景を多面的・多角的に考察し，表現している。  ・グローバル化の進展にともなう労働者の移動について，p.387の写真②を手がかりに，非熟練労働者とIT労働者などの事例に応じて，その課題を多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.387のTryを活用して，新自由主義政策によって進行した経済格差を解決するための試みの例を複数挙げ，その効果について検証したうえで，最も重要だと考える事柄について主体的に追究しようとしている。 |
| ACTIVE⑫  世界の格差とその  解消への取り組み | 〇世界の国々の間に存在する格差は，どのようにうまれ，どのようにすれば解消できるだろうか。  ・世界の国々の間の格差の現状について，資料をもとに理解するとともに，解決の手立てを考える。 | ・格差是正について，本項ではマクロな視点について多く述べられているが，p.389の資料⑦にあるようなミクロな視点（社会的弱者の救済など）もあることを指摘する。 | ・p.388の大問①のSTEP1～3を活用して，世界各国の経済力の違いの変化と現状について理解している。  ・p.389の大問③のSTEP1を活用して，主要国によるODAがどのように推移しているかについて理解している。 | ・p.389の大問②のSTEP1・2を活用して，南北問題の問題点を明らかにしたうえで，SDGsで掲げられる国内・国家間の不平等の是正のための具体的方策について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.389のTryを活用して，世界の格差がうまれた原因を歴史的に説明したうえで，それを解消するための手立てを，誰が主体になるべきかに留意しながら，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| 第18章  科学技術の時代と  知識基盤社会 | 〇第18章のねらい  ・原子力の利用や宇宙探査などの科学技術，医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理，人工知能と労働の在り方の変容，情報通信技術の発達と知識の普及などを基に，知識基盤社会の展開と課題を理解させる。  ・科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，現代の科学技術や文化の歴史的な特色，第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | ・原子力の利用や宇宙探査などの科学技術，医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理，人工知能と労働の在り方の変容，情報通信技術の発達と知識の普及などを基に，知識基盤社会の展開と課題を理解している。 | ・科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，現代の科学技術や文化の歴史的な特色，第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・知識基盤社会の展開と課題について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うととともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | ２ |
|  | １．地球環境の未来 | 〇地球環境問題の解決のために，どのような国際的取り組みがおこなわれているだろうか。  ・気候変動をはじめとした世界全体の問題解決に向けたSDGsの意義について考える。 | ・SDGsについては近年総合的な探究など多くの授業で取り組まれていることを前提に，世界史探究の授業として歴史的背景を意識しながら取り扱うよう留意する。 | ・気候変動の基本的なメカニズムについて理解している。  ・気候変動をはじめとした環境問題の背景にグローバル資本主義の問題点があることについて理解している。 | ・p.390の写真②を活用して，なぜアラル海の水位が下がっているのか，開発にともなう問題点について多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.395のTryを活用して，SDGsの問題提起をもとに，1つの問題が他の問題とも関わっていることを前提に，世界史の中で取り上げられてきた課題と関わらせながら自身の関心の向く問題を指摘し，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ２．バイオ・生命科学と私たちの生 | 〇バイオテクノロジーの発達は，どのような課題を突きつけているのだろうか。  ・バイオテクノロジーの発達が，人間に倫理的・法的・国際社会的な諸問題を突きつけていることを考える。 | ・生命倫理の問題については，中学社会の公民的分野などでも扱っていることを前提に，遺伝子組み換え作物の議論にも共通して，社会的合意を形成することの困難さと重要性に気づかせるようにする。 | ・バイオテクノロジーの発達がもたらした社会の変化について，その功罪を理解している。  ・p.392の写真①を手がかりに，感染症がグローバル化する世界でどのような問題を明らかにしたか，理解している。 | ・p.391の写真③・④を活用して，バイオテクノロジーの正の側面を考えたうえで，他方で生じる負の側面について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・グローバル化する世界の中で行き来する遺伝子組み換え作物やウイルスがどのような問題をもっているかを整理したうえで，そのテーマについて世界史上これまでどのような問題があったのかを振り返り，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ３．ICTの発達と  情報社会 | 〇情報通信技術（ICT）の発達は，人々の社会生活をどのように変えたのだろうか。  ・ICT技術の発展の経緯を理解するとともに，これからの技術革新を見通して，その諸課題を考える。 | ・生徒が使いこなしているICT機器やSNS等の功罪について，教員が正しい知識を得て説明できるよう留意する。 | ・インターネットの成立と個人がデバイスを持ち歩くスマホの時代が成立したことによる社会の変化について，理解している。 | ・p.393の写真②を手がかりに，インターネットやスマホを通じた新しいメディアの登場とその社会的な役割について，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.393の図③を手がかりに，Society1.0から4.0までの歩みと社会にもたらした影響を歴史的に検証し，Society5.0に向けての諸課題を自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ４．知識基盤社会の  形成 | 〇これまでの産業資本主義と新たな知識資本主義は，どこが違うのだろうか。  ・産業資本主義と知識資本主義の違いについて考える。 | ・知識基盤社会・知識資本主義の時代にどのような考え方や経験が求められるのか，生徒の学びの姿勢にも訴えかけたい。 | ・各国がすすめた知識基盤社会を形成するための諸政策について理解している。  ・産業資本主義と知識資本主義の違いについて理解している。 | ・知識基盤社会へ移行することによって，既存の国家やIMF，世界銀行，WTOなどはどのような変化を迫られるのかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・産業資本主義を担う地域と知識資本主義を担う地域との分業の再編成がおこなわれるだろうことを前提に，その問題点について自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| ５．科学技術と平和 | 〇科学技術の革新と軍事技術の革新は，どのように結びついてきたのだろうか。  ・科学技術の進展が軍事技術の革新に結びついた具体的事例として，核兵器や宇宙の軍事利用の懸念などについて考える。 | ・p.351のThemeコラムおよびp.374のThemeコラムもあわせて参照させ，科学者の社会的責任と科学技術の政治的利用という観点からも考えさせるようにする。 | ・p.394の写真①を手がかりに，原子力が原水爆にも原子力発電にも用いられ，いかに国際社会がそれをコントロールしようとしているかについて理解している。  ・p.395の写真②を手がかりに，海洋・南極・宇宙の探査と利用に関する国際的な取り決めについて理解している。 | ・p.395の表③を手がかりに，軍事技術の革新によってうまれた非人道的兵器の使用をいかに制限するかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・科学技術の革新が軍事技術の革新となり，結果として人を傷つけることにつながらないようにするために国際社会はどのように対応すればよいかについて，主体的に追究しようとしている。 |
|  | ACTIVE⑬  世界史のなかの  感染症 | 〇ペスト（黒死病）とインフルエンザ（スペイン風邪），そして近年の感染症を題材に，感染症の原因や影響などを考察していこう。  ・ペスト・スペイン風邪・COVID-19の3つの感染症について，流行の経緯と社会的影響の異同について考える。 | ・COVID-19の流行の収束は見通せず，生徒の中にも罹患した人がいることから，差別的なまなざしが授業に入らないよう十分注意する。 | ・p.396の大問①のSTEP1・2を活用して，資料①～④を読み取ったうえで，ペスト流行の原因と社会的影響について理解している。  ・p.397の大問②のSTEP1を活用して，スペイン風邪の流行の原因と社会的影響について理解している。 | ・p.397の大問②のSTEP2を活用して，スペイン風邪の流行時に見られた状況と近年のそれを比較しながら，多面的・多角的に考察し，表現している。  ・p.397の大問③のSTEP1・2を活用して，COVID-19が国家，また社会や人間関係にどのような変化を及ぼすか，多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・p.397のTryを活用して，パンデミックが社会のあり方にどのような影響をもたらしたのかについて，歴史的経緯もふまえ，自身の生活や経験とも関連付けて，主体的に追究しようとしている。 |
| 地球世界の課題の  探究 | ・第16～18章で学習した事項を参考にして，持続可能な社会の実現を視野に入れ，「地球世界の課題の形成に関わる」主題について，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，多面的・多角的に考察，構想して探究し，地球世界の課題を理解させる。 | ・「世界史探究」の学習の総まとめとして位置づけ，生徒がこれまでに習得した知識や技能を活用して主体的に探究するよう指導する。  ・紛争解決や共生，経済格差の是正や経済発展，科学技術の発展や文化の受容については，それらが相互につながりをもっていることに気付かせる。 | ・紛争解決や共生，経済格差の是正や経済発展，科学技術の発展や文化の受容に関して，歴史的経緯をふまえて，地球世界の課題を理解している。 | ・紛争解決や共生，経済格差の是正や経済発展，科学技術の発展や文化の受容に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 | ・資料等から導き出された根拠を踏  まえた結論を出し，レポートなどにまとめ，相互に説明したり意見を聞いたりすることにより，考察をより深め，学習したことを地球世界の課題の解決に生かそうとしている。 | ２ |